

## 第3編 学 校 別 研 究

### 【 目 次 】

沼 田 小 学 校 .....	6 1
沼 田 東 小 学 校 .....	6 5
沼 田 北 小 学 校 .....	6 9
升 形 小 学 校 .....	7 3
利 南 東 小 学 校 .....	7 7
池 田 小 学 校 .....	8 1
薄 根 小 学 校 .....	8 5
川 田 小 学 校 .....	8 9
白 沢 小 学 校 .....	9 3
利 根 小 学 校 .....	9 7
多 那 小 学 校 .....	1 0 1
沼 田 中 学 校 .....	1 0 5
沼 田 南 中 学 校 .....	1 0 9
沼 田 西 中 学 校 .....	1 1 3
沼 田 東 中 学 校 .....	1 1 7
池 田 中 学 校 .....	1 2 1
薄 根 中 学 校 .....	1 2 5
白 沢 中 学 校 .....	1 2 9
利 根 中 学 校 .....	1 3 3
多 那 中 学 校 .....	1 3 7
利 南 幼 稚 園 .....	1 4 1
薄 根 幼 稚 園 .....	1 4 5

# 沼田小学校

所在地 〒378-0042 沼田市西倉内町746番地  
電話番号 0278-22-2063 FAX 22-0780  
校長名 永島 芳信

## I 学校の経営

### 1 学校の教育目標・経営方針

#### 「知」よく学ぶ子 【深く考える子】

習得した知識・技能を活用しながら、課題に対して深く考える力を育成する。

#### 「徳」助け合う子 【温かく接する子】

自他に温かい言葉をかけ、さまざまなことに積極的に挑戦させることをとおして達成感や満足感を味わわせ、児童の自己肯定感を醸成する。

#### 「体」元気な子 【強い体をつくる子】

体力の向上、生活習慣の定着を図り、健康・安全に留意しながら生活する態度を育成する。

### 2 スローガン

「温かい言葉で 一歩前へ！」（児童）

「温かい言葉で 自己肯定感の醸成」（教職員）

### 3 本年度の重点施策

#### (1) 確かな学力 「知」よく学ぶ子【深く考える子】

- ①課題に対して深く考えさせる場を意図的に設定し、児童が「わかった」「できた」と感じられる単元・授業構想の工夫をするとともに、がんばりを積極的に認める。
- ②考えを交流したり、協働して問題を解決したりする活動を充実させ、考えを広げたり深めたりするとともに、互いの考えのよさに気づかせる。
- ③ICTを効果的に活用して多様な考えに触れさせることをとおして、考えを広げ、深めるとともに、一人一人が自信をもって考えを表現できるようにする。

#### (2) 豊かな心 「徳」助け合う子【温かく接する子】

- ①道徳の授業において、他者理解、人間理解の場を充実させ、自分と違う考え方があることに気づかせるとともに、相手を尊重する心を育む。
- ②学級活動や児童会活動において、児童が主体的に企画・運営する活動を充実させ、自己有用感を感じさせる。また、責任をもって取り組ませることをとおして達成感をもたせる。
- ③「ありがとうの木」、異学年交流、あいさつの励行等をおして感謝の気持ちや互いのよさを認め合える心を育む。
- ④特別支援学級との共同及び交流学习、通級指導教室との連携を充実させることをとおして、お互いを尊重し合うことの大切さを感じさせる。

#### (3) 健康・体力 「体」元気な子【強い体をつくる子】

- ①教科体育や体育的行事において、一人一人に目標をたてさせて主体的に取り組ませることにより、達成感をもたせる。
- ②「元気ウィーク」を効果的に活用し、食生活の改善やメディアとの効果的な関わり方等について考えさせ、主体的によりよい生活習慣を身に付けようとする態度を育む。

#### (4) 組織運営

- ①教科担当制のよさを生かして、児童の様子や教材についての情報交換を充実し、風通しのよい職場づくりや多忙化解消に努めるとともに、児童理解を深める。
- ②特別支援教育C oを中心とした組織的な支援を充実させ、一人一人の実態やニーズに沿った支援を充実させる。
- ③ベテラン、若手のよさを生かし、教職員同士が学び合う機会を設定することをとおして、一人一人の職能成長を図る。

#### (5) 家庭・地域連携

- ①学校運営協議会の設置を見据えて経営の重点等を積極的に発信するとともに、家庭・地域の声に耳を傾けながら目指す児童像を共有し、自己肯定感の醸成に向けて連携・協働する。
- ②地域の人的・物的資源を積極的に活用し、「社会に開かれた教育課程」の視点を踏まえたカリキュラムマネジメントを充実させる。

## II 校内研修の推進

### 1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～  
主題 主体的に取り組み、共に学び合う子の育成  
副主題 ～思考を深めるための効果的なICTの活用を通して～

#### 児童の実態との関わり

- ・ 昨年度までの校内研修を通して、ICTを活用して考えを表現し、他者と考えを共有して比較して考えることができる児童が増えてきている。
- ・ 他者の考えから学ぼうとする姿勢は見られるが、他者の考えをよく理解し、考えを深めていくことはまだ十分ではない。
- ・ 沼小スタンダードの継続により、学習の流れを見通し主体的に考え、問題解決に向かう姿が見られ、NRTやCRTの結果からも、思考の領域が少しずつ伸びてきていることが読み取れる。

#### 指導の在り方との関わり

- ・ ICTを活用し児童の考えを可視化して思考を広げることができている。これらをもとに考えを深めさせる手立てはまだ充実できていない。
- ・ 粘り強く、自己調整しながら学習に取り組ませる支援はまだ十分ではないため、児童に自己の学びを振り返らせ、次につなげながら思考を深めていく学習過程を工夫していく必要がある。
- ・ 繰り返し学習などにより、思考力の礎となる基本的な知識技能を習得させる必要がある。

### 2 研修内容・方法

#### (1) 具体化した目指す児童像

- 【低学年】 考えを伝え合い、多様な考えに気付く児童
- 【中学年】 考えを伝え合い、よりよい解決方法を選択し、考えをまとめられる児童
- 【高学年】 考えを伝え合い、よりよい解決方法を多面的に捉え、結論を導き出せる児童
- 【特別支援】 自分の考えを伝え、他者の考えを認められる児童

#### (2) 具体化した目指す児童像を達成するための共通実践する手立て

- ◆ 「はばプラⅡ」に基づいた「沼小スタンダード（めあて、見通し、まとめ、振り返りの単位時間の流れ）」の実践を継続するとともに、「はばプラⅡ ICT活用Version」を参考にした授業づくりをする。
  - ① 【深まりを生む対話的な学びの工夫】
    - ・ 追究する場面において、伝え合ったことをもとにじっくり考えさせる場を設定し、「見方・考え方」を働かせながら比較・検討させることを通して、考えを深めさせる。
  - ② 【効果的なICTの活用】
    - ・ ICTにより可視化された考えや根拠をもとに思考を深められる場面を設定する。

### 3 研修計画・経過報告 <裏面>

### 4 これまでの研修の成果と今後の取組

#### ○成果

- ・ ICTを活用して、児童の考えを思考ツール（くらげチャート、十字チャート、キャンディーチャート等）で整理したことにより、複数の意見をまとめたり別の視点から多角的に考えたりする児童が多く見られた。
- ・ ICTで可視化した考えを、「同じ意見・違う意見」等に分類し、それぞれの立場から考えた理由を説明させたことにより、自力解決の場面よりも深く考えている様子が見られた。

#### ○課題

- ・ ICTで可視化する際、情報や考えがたくさんあると混乱してしまう児童が見られたため、「同じ点・異なる点」等に分類し、考えを整理する思考力を身に付けていく必要がある。
- ・ ICTを活用して協働学習を行う際のグループ活動の意義について検討していく必要がある。

#### ○課題解決に向けての今後の取組

- ・ 児童が深く考える時間を意図的に設定し、ICTにより可視化した考えをもとに比較、検討等させながら自己の考えを深められる授業を展開していく。
- ・ グループで協働活動を行う際には、何を目的としてどのような場面で行うのかをよく吟味して、思考を深めるために有効に働くようにしていく。

3 研修計画・経過報告

指は、指導案検討 授は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
4.10 4.17	【推進委員会①】 【全体会①】 ・研修計画の検討	○主題、副主題、研修組織、研修計画、目指す児童像の検討・確認。 ・昨年度の成果と課題、児童の実態等を踏まえ、これまでの取組を重点化し、効果的なICT活用を図っていく今年度の方向性を確認。
5.18	5年算数 「直方体や立方体の体積」 授今井教諭	○ICTを活用した算数での、沼小スタンダードの実践と検討。 指検討会(算数科部会5.16)→授業(算数科部会)→授業研究会(算数科部会) ・問題を提示して「めあて」を作る、既習を生かした「見通し」、自力解決から集団解決、児童の言葉での「まとめ」、類似問題や言葉での「振り返り」という基本の流れやICTを活用した一斉の見取り、色分けによる意図的指名による学び合いについて共有された。
5.22	【全体会②】 ・研修計画の修正、確認	○研修計画の確認。一人1授業の確認。 ・一人1授業の計画や構想シートの活用が共有され、見通しをもてた。
6.15	【全体会③】 ・ICT研修	○本校における効果的なICT活用例の紹介。 ・思考を深める手立てとなるICTの活用の仕方について今までの活用例をもとに確認できた。
6.22	授指導主事訪問A	○校内研修の方向性を確認。 ・校内研修の充実を図る4つのポイント、思考を深める場面の共通理解を図ることが大切であることを確認。
9.4	【全体会④→各部会】 指算数関ブロ 理科授業改善プロジェクト 社会科実践発表	○授業者の思いやねらいを確認し、研修のねらいを達成するための手立てとなるように検討を行う。 ・それぞれの発表に向けての進捗状況や今後の一人1授業計画について共通理解された。 ・A訪問で指導を受けたことをもとに各教科での「思考を深める」場面の確認、共通理解がされた。
10.3	3年2組社会 「働く人とわたしたちの暮らし 農家の仕事」 授南雲教諭	○社会科における対話的な活動場面での効果的なICT活用実践と検討。 ・思考ツール(くらげチャート)を活用した情報の整理が思考に繋がった。 ・共有ノートを活用したが、個々の作業になりがちであった。話し合いの時間と作業の時間のバランスも大切である。
10.6	3年1組社会 「働く人とわたしたちの暮らし 農家の仕事」 (校内代表授業) 授倉澤教諭	○社会科における対話的な活動場面での効果的なICT活用実践と検討。 指検討会I(社会科部会8.23)→検討会II(社会科部会9.25)→南雲先生プレ(社会科部会10.3) ・十字チャートが共有ノートで作業する思考ツールとして有効であった。 ・指導者の問い返しにより、思考が深まりめあてにそった活動ができた。 ・学び合いという面で、作業と話し合いの同時進行が忙しかった。
10.12	1年2組算数 「たしざん」 (校内代表授業) 授戸部教諭	○算数科における課題解決場面での効果的なICT活用実践と検討。 ・ICTでのブロック操作は1枚のシートで完結するので、時間的にも場所的にも1年生の実態に合っている。操作が思考につながっている。 ・振り返りの適応問題で説明させる活動(言葉に出す)を取り入れると、さらに思考が深まったのではないかな。
10.17	6年1組社会 「江戸幕府と政治の安定」 授後藤教諭	○社会科における対話的な活動場面での効果的なICT活用実践と検討。 ・キャンディーチャートが大名と幕府の両方の立場を考え、比較するのに有効であった。大名の立場と幕府の立場の2つのグループに分けて考えを交流してもよかったかもしれない。
10.23	2年1組算数 「かけ算」 授森下教諭	○算数科における課題解決場面での効果的なICT活用実践と検討。 ・ICTや図での視覚的な提示により見通しをもって予想がたてられた。 ・かけ算の意味に繋がる既習事項との共通点を見つけ、それを説明する場面にICTを活用したら思考が深まったのではないかな。
10.31	6年2組学活 「第3回交流タイムを成功させよう」 (教育研究所授業) 授兵藤教諭	○学級活動(1)における合意形成に向けた効果的な手立ての検討。 ・ICTを活用したアンケートの結果をもとにクラスの実態を把握し、子どもたちから議題を提案することができた。また、話し合いの中で立ち返るポイントを明確にしたことで、目的に沿った意見が出された。
11.1	2年2組算数 「かけ算」 (初任者研修授業) 授川端教諭	○算数科における課題解決場面での効果的なICT活用実践と検討。 指検討会I(10.13)→森下先生プレ(算数科部会10.23) ・ICTを、「一つ分の数」が全て同じであることの必要性に気付かせる場面で活用したことや児童のつぶやきから授業を組み立てる流れがよ

		かった。主発問を生かせるワークシートの工夫があるとよかった。
11. 2	算数関ブロ発表 [発]戸部教諭	○本校研修の成果を発表する。 ・時間はかかるが、低学年からICTに慣れ親しむ活動は大事である。 ・結果に至るまでのプロセスをどのように共有していくかを検討。
11. 7	授業改善プロジェクト(理科)公開 5年2組理科 「流れる水の働きと土地の変化」 [授]町田教諭	[指]5年1組プレ(10.30)→検討会(11.2) ○理科における課題解決場面での効果的なICT活用実践と検討。 ・実験の動画や結果の写真をもとに予想と照らし合わせながら考察したことにより根拠をもって結論を導くことができた。また、各班の実験結果の共有や考察の交流により、自分の考察以外の結論に気付けた。
11.10	1年1組算数 「ひきざん」 [授]見城教諭	○算数科における課題解決場面での効果的なICT活用実践と検討。 ・実物を使った導入により、ねらいに繋がる考えを引き出せていた。 ・ブロック操作→ロイロに考えを表現→説明→ブロック操作という活動が途切れない展開で思考の流れがスムーズであった。
11.13	【全体会⑤】 ・研修の確認・修正	○これまでの校内研修の成果・課題を明らかにし、これからの研修の方向性を確認する。 ・今までの校内研修を確認し、今後の予定について見通しがもてた。
11.20	6年1組外国語 「Let's think about our food.」 [授]萩原一貴教諭	○外国語における効果的なICT活用実践と検討。 ・発表練習の動画を何度か撮り、動画を確認したり比較したりすることで発表のポイントを振り返り、より良い発表にするために友達とコミュニケーションをとりながら活動することができていた。
11.27	【全体会⑥】 ・研修の成果と課題	○今年度の研修を振り返り、成果と課題を明らかにする。 ・今年度の校内研修を振り返り、来年度の見通しをもつことができた。
11.28	5年2組社会 「これからの食料生産とわたしたち」 [授]萩原瑠奈教諭	○社会科における対話的な活動場面での効果的なICT活用実践と検討。 ・ICTでの資料提示が児童の関心を高め、考える手立てや根拠に繋がっていた。資料を読み取る力をつけるにも有効であった。 ・視点を与えて食糧自給率の低下が招く問題を考えさせたことが思考力を高めることに繋がっていた。
11.29	4年1組社会 「県内の文化財や年中行事」 [授]河野教諭	○社会科における対話的な活動場面での効果的なICT活用実践と検討。 ・ICTを使って効果的に資料を提示することによって、児童が資料をよく読み、思考を高めることに繋がっていた。また、同じ資料でも視点を変えて読み取らせることにより思考を高められていた。
1.24	5年2組音楽 「詩と音楽の関わりを味わおう」 [授]星野教諭	○音楽科における効果的なICT活用実践と検討。 ・自分が興味をもった視点に絞って深く考えさせたことによって、他の視点で考えた友達との交流が有意義であった。
1.26	社会科実践発表[発]倉澤教諭	○本校研修の成果を発表する。
1.29	【全体会⑦】・研修のまとめ	○成果と課題の検討、来年度の方向性の確認。
3.11	【全体会⑧】・来年度の研修計画	○来年度の計画の検討。

※資質向上研修

	区 分	講 師	内 容
4.18	保健に関する研修	養護教諭 松井 純子	・エピペンの使い方について
5.22	特別支援教育に関する研修	スクールカウンセラー 原澤 幾子	・不登校のケースの見立てと対応
11.13	服務規律研修	校長 永島 芳信	・事例から考える教職員としての服務

< 職 員 一 覧 >

職 名	氏 名	職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	永島 芳信	教 諭	後藤 千穂	教 諭	小幡 操
教 頭	本多 章浩	〃	小熊 一洋	養護教諭	松井 純子
教 諭	佐藤 紀子	〃	神田 景子	主任事務長代理	石山 朝香
〃	今井由香利	〃	萩原 一貴	主任用務員	樋口 元二
〃	見城 由香	〃	兵藤 寛山	学校教育支援員	原澤 智美
〃	佐藤 真理	〃	萩原 瑠奈	〃	黒沢 伸江
〃	星野美由紀	〃	川端 真綸	生活相談員	小林 昌子
〃	倉澤 泰子	〃	片野 絵理	教育業務支援員	齋藤 理恵
〃	戸部亜由美	〃	南雲 寛樹	初任研後補充非常勤講師	小野 喜美恵
〃	町田 友香	〃	櫛淵 悠	スクールカウンセラー	原澤 幾子
〃	森下 由佳	〃	生方穂乃香		
〃	河野 徳子	〃	片野日佳梨		

# 沼田東小学校

所在地 〒378-0053 沼田市東原新町1801-1  
電話番号 0278-23-1118 FAX 22-0781  
校長名 登坂 一彦

## I 学校の経営

### 1 学校の教育目標

- (1) 基本目標 「心豊かで、よく学び、生きる力みなぎる沼東小っ子」の育成
- (2) 具体目標 ○がまん強く元気な子 ○正しいことを進んでする子  
○よく見よく聞き考える子 ○なかよくたがいに助け合う子  
○いつもまじめに働く子

### 2 経営方針

#### (1) 目指す学校像

「子どもが明るく元気に通える学校」 「保護者が信頼して任せられる学校」  
「地域が誇りにできる学校」 「教師のよさを発揮できる学校（支え合い、高め合う教職員）」

#### (2) 目指す子ども像

「ひ」 人の気持ちを感じ取り、行動する子  
「が」 学力向上に向け、頑張り通す子  
「し」 心身の健康を考え、生活する子

#### (3) 目指す教職員像

「子どもに夢や理想をもたせる教職員」 「子どもの個性や能力を伸ばす教職員」  
「保護者、地域から信頼される教職員」

### 3 本年度の重点施策

#### (1) 豊かな人間性の育成 「ひ」人の気持ちを感じ取り、行動する子

- ①人権教育や道徳教育の充実による、思いやりの心をもち好ましい行動ができる児童の育成  
②生活五原則(①あいさつ②返事③整理整頓④無言清掃⑤時間を守る)の励行による望ましい生活習慣を身に付けた児童の育成  
③工夫した読書活動の推進による豊かな心をもった児童の育成  
④子供の人権を尊重した指導による高い自己肯定感・自己有用感をもった児童の育成

#### (2) 学力の向上 「が」学力向上に向け、頑張り通す子

- ①授業の「ねらい」の明確化と工夫した授業展開による、確かな学力を身に付けた児童の育成  
②個別指導の推進と家庭学習の充実による、基礎・基本と望ましい学習習慣を身に付けた児童の育成

#### (3) 心身の健康・体力の向上 「し」心身の健康を考え、生活する子

- ①体力向上プランの確実な実施と運動量を確保した体育授業による体力向上の推進  
②感染症対策の継続、基本的な生活習慣の確立、家庭と連携した疾病治療等による健康教育の充実

#### (4) 安全安心な学校づくり

- PTAによる校内防犯パトロールや、「地域安全委員会」等、保護者・地域の方々との連携等による危機管理の徹底  
○工夫した避難訓練の実施による教師・児童の危機回避能力・危機対応能力の育成。

#### (5) 職員の職能成長

- 校内研修における授業研究会等を通じた教師の指導力の向上  
○報告・連絡・相談・記録の徹底と全職員による業務改善・多忙化解消への取組の推進

## II 校内研修の推進

### 1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主 題 主体的に学習に取り組む児童の育成

副主題 ～教科等の交流場面におけるICTを活用した授業実践を通して～

#### 児童の実態との関わり

- ・昨年度までの校内研修を通して、ICTにより視覚的に問題を捉え、意欲的に学習に取り組む児童が増えている。
- ・1人1台端末上の機能を活用することにより、友達のことを見て理解しようとしたり、画面上で考えをやり取りしようとしたりする様子が見られた。
- ・端末の機能を使った交流では、自分の考えを示したり伝えたりすることはできるが、お互いの考えを比較検討してよりよい考えや解決方法へと高めることには課題が残った。

#### 指導の在り方との関わり

- ・単元構成を考える際、ICTの活用が効果的な交流場面を明確にする必要がある。
- ・写真や動画、図やグラフなど、視覚に訴えるICTのよさを生かして、児童同士が進んで交流したくなるようなICTの活用方法を工夫する必要がある。
- ・ICTを活用した交流の中で、お互いの考えを比較検討してよりよい考えに高めるなど、児童が学びを深められるようにするための教師の関わり方を追究する必要がある。

### 2 研修内容・方法

#### (1) 具体化した目指す児童像

- 【低学年】自ら進んで友達と対話をして、考えのよさに気づくことのできる児童
- 【中学年】自ら進んで友達と対話や協働して、よりよい考えを見つけることのできる児童
- 【高学年】自ら進んで友達と対話や協働して、考えを高め合うことのできる児童

#### (2) 具体化した目指す児童像を達成するための共通実践する手立て

- ・ICTの活用が効果的な交流場面を吟味し、児童が進んで交流したくなるようなICTの活用方法を工夫する。
- ・ICTを活用した交流場面で、児童が自分の考えを伝えるだけでなく、お互いの考えのよさや違いに気付くような教師の指導方法を追究する。
- ・交流を通じて、児童がいろいろな考えを比較検討し、考えを深めたり広げたりするような教師の指導方法を追究する。

### 3 研修計画・経過報告 <次ページ>

### 4 これまでの研修の成果と今後の取組

#### ○成果

- ・ICTの活用では、端末を使う場面を絞る、グループ内で操作する人を決める、協働に適した人数を3～5人にするなど工夫により、交流場面における児童同士の対話が増え学び合う様子が見られた。
- ・交流で何をやるのか、端末をどのように使うのかを、教師が例をあげて具体的に示すことで、児童がやるべきことを正しく理解し、ICTのよさを生かした交流につながっている。

#### ○課題

- ・ICTを活用した交流場面では、指導者がICTの操作をスムーズに行うとともに、児童の発言を促す、整理する等のスキルを高める必要がある。
- ・学習の様々な場面でICTを積極的に使っているが、児童が学び合い高め合う際にICTの投入がより効果的な場面を絞り込んでいく必要がある。

#### ○課題解決に向けての今後の取組

- ・交流場面において、ICTの効果を感じられるような活用の仕方をさらに追求していきたい。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [〇研修の視点(上段)・明らかになったこと(下段)]
4.24	全体会①	〇研修主題、研修内容・方法の検討、研修計画書の検討をした。
5.22	全体会② ・研修計画の共通理解 ・特別支援の講習会	〇一人一授業の計画を立てた。 〇学年毎の手立て等について確認した。 〇特別支援学校の伊藤先生による、特別支援の講習会を行った。
6.19	全体会③ ・部会別授業計画・準備	〇一人一授業に向けて授業計画・準備を行った。 〇A訪問に向けて準備を行った。
6.23	指導主事要請訪問 A 情報交換及び授業見学	〇研究授業を行った。 〇研修の方向性の指導・助言を受けた。
7.4	ことばの教室 言語学習 授 小川教諭 「ザ行音の練習」	〇タブレットを活用して発音練習の様子を映像に撮り、以前と今回のものを比べることにより、変化に気付かせる指導を行った。 ・タブレットの映像機能を使って比較したことは、教師と児童1対1の授業において、児童が自分の上達の様子を客観的に捉えることができ、学習への主体性を高める上でとても有効である。
7.14	4年 国語 授 見城教諭 「夏の楽しみ」	〇班で交流する際に1台の端末を見合うようにして、画面越しではなく相手の顔を見ながら対話的な活動をさせることにより、表現のよさを共有し作品の理解を深められるようにした。 ・話し合いの視点を与えたことは、児童の気付きや理解を深め、班の交流活動を充実させる上で大変有効である。
8.28	全体会④ ・B訪問授業構想(1)	〇B訪問の授業構想を知り、展開の検討を行った。
9.6	6年 理科 授 今井教諭 「月の形と太陽」	〇実験方法や端末の使用場面をしっかりと確認することで、児童が実験の目的を正しく理解し見通しをもって実験を行えるようにした。 ・グループ実験において、一人一人に役割をもたせ、端末を使って実験の記録やまとめをさせたことは、児童同士の対話や協働を生み、思考力を高める上で大変有効である。
9.22	2年 算数 授 吉本教諭 「さんかくやしかくのかたちをしらべよう」	〇形パズルを使った形作りに取り組みせ、自力解決により組み合わせ方をいろいろ試した後、班ごとに意見交換を行った。 ・導入の際に電子教科書を提示して「さんかく」「しかく」の形の復習をしたことは、「形の組み合わせ方や形の特徴」を話し合う際に多くの気づきを引き出すことにつながり、有効である。
10.2	全体会⑤ 指 B訪問指導案検討(2)	〇本時の展開を中心とした指導案検討を行った。
10.11	部会別 指 B訪問指導案検討(3)	〇本時の展開を中心とした指導案検討を行った。
10.16	全体会⑥ 指 B訪問指導案等確認(4)	〇指導案全体の検討及び確認を行った。 指導主事訪問当日の確認を行った。
10.17	4年 算数 授 武井教諭 「計算のきまり」	〇自力解決では、タブレット上の図を活用して「まとめ」を意識した求め方を色々考えさせ、集団解決では、大型モニターの画面から他者の考え方を読み取らせた。 ・全体共有の場面において、大型モニターを使い他者説明をさせたことは、自他との違いや様々な考え方に気づかせる上で有効。
10.17	5年 学活 授 林教諭 「音楽発表会に向けて、練習計画を決めよう」	〇班の代表者のタブレットに各自の意見を集め、1台の端末を見合った話し合いをすることで合意形成を図りやすいようにした。 ・班の意見交流の際に、1台のタブレットを見合うこと、また各自の意見を代表者のタブレットに集めておくことは、理解を図りながら班の意見をまとめる活動に有効である。
10.20	6年 国語 授 外山教諭 「秋深し」	〇事前に写真を撮る活動をさせておき、俳句や短歌の作品に写真を添えることで創作意欲を高め、思いのこもった作品作りや交流ができるようにした。 ・タブレットを活用し、手元で班の人の作品を見ながら交流することは、言葉に込められた思いの理解や推敲に大変有効である。
10.26	3年 体育 授 指導主事訪問 B 藤井祐聖教諭 「タグラグビー」	〇タブレット上の作戦ボードを使い、仲間がどう動くかよいかを班で話し合い、試したり見直したりすることで、技能の習得を図れるようにした。 ・タブレット上の作戦ボードは、守りと攻めを動かしながら話し合えるため、考えを共有する上で有効である。また、作戦ボード上の動きを画面録画しておくことは、考えた作戦を振り返る上で大変有効である。



11.10	1年 国語	授 佐々木教諭 「じどう車くらべ」	○動画で「はしご車のしごと」を確認した後、タブレットの写真を活用して「つくりの工夫」を見つけ、意見交換をさせた。 ・2人組及び全体の交流場面において、タブレットを活用し画面を示しながら話すことは、伝える側の言葉の助けになり、聞く側の正しい理解につながり、有効である。
11.14	ひまわり3組 国語	授 小田橋教諭 「説明文を書こう」	○学習場所を図書室にしたことにより、百科事典等の資料を比べたり、タブレットで調べたりできるようにし、学習への意欲が高まるようにした。 ・本とタブレットの両方を活用して調べられる環境づくりは、児童が主体的に学ぶ上で有効である。
11.20	全体会⑦ ・指導された内容の共通理解		○指導主事訪問で指導された点について、共通理解した。 ○教育相談に向けて共通理解
11.21	6年 学活	授 千明教諭 「友達のことを知り、信頼関係を深めよう」	○「幸せなクラスを作るために身に付けたい能力」について、個人で考えた複数の能力を班で共有し、シンキングツールの「座標軸」を使って意見を整理していき、班の意見をまとめさせた。 ・座標軸を使ったことは、考え方の方向性を明確にし、様々な意見を分類・整理することに役立った。班の意見をまとめる学習において大変有効である。
11.21	1年 道徳	授 米山教諭 「みんなとなかよく」	○主人公の迷う気持ちを「大切にしている・していない・分からない」の3択で考えさせ、大型モニターに表示して意見交換することで、考えを明らかにしたり違う考えに気付かせたりした。 ・ジャムボードを使い全体の意見の傾向を捉えることは、意見交流を通して異なった考えを理解することにつながり有効。
11.22	ひまわり1・2組 自立活動	授 片野教諭 富沢教諭 「息を合わせて協力しよう」	○新聞棒を使ったボール運びゲームにおいて、友達と声を掛け合うよさや、言葉の大切さに気づけるように、活動の様子をタブレットで録画し、大型モニターで振り返らせるようにした。 ・大型モニターの活用は、視覚と言葉の両方からアプローチできるため、児童に入りやすく有効である。
11.29	4年 英語	授 栗原教諭 「What do you want?」	○ピザの紹介を動画に録画し、グループで交流させた。お互いの動画を見合い、アドバイスを口頭で伝えた後端末にカードを送り、それを参考に動画を確認し、改善を図れるようにした。 ・口頭で伝えた内容をカードに記して送ったことは、よい点や改善点を意識することに繋がり、英語表現の質を高める上で有効。
12.5	ひまわり4組 算数	授 小野里教諭 「分数のたし算・ひき算」	○前時の復習から入ったことで、分数のきまりを確認することができた。簡単なカードゲームを取り入れることにより、集中力を持続させることができた。細かな支援が効果的だった。 ・分数の大きさを比較する際に、牛乳パックをイメージする図で書き表し直接比較させたことは、視覚支援になり有効である。
12.5	2年 算数	授 土井教諭 「かけ算」	○自力解決の際にはタブレットでカードを複製し、カードごとに考えを記録させ、子どもの柔軟な考えを表現できるようにした。 ・「見通す」場面において、児童の考えを引き出す問い返しにより、この方法が使えるそうだ、解き方は一つではない等、児童が思考を広げたことは、自力解決や集団解決に大変有効。
1.22	全体会⑧		○2学期の授業実践の成果と課題を明らかにした。
2.5	全体会⑨		○研修の成果と課題のまとめを行った。
3.11	全体会⑩		○来年度の研修テーマ、サブテーマについて検討した。

＜ 職 員 一 覧 ＞

職 名	氏 名	職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	登坂 一彦	教 諭	栗原 智恵	事 務 主 任	井田 健司
教 頭	浅見 尚孝	〃	米山 亘	ス ー ル カ ウ ン セ ラ ー	阿左見康成
教 諭	千明 浩己	〃	藤井 祐聖	生 活 相 談 員	中澤 直子
〃	小野里純子	〃	林 杏佳音	学 校 支 援 員	北村恵美子
〃	井上 初枝	〃	今井 美重	〃	真庭由喜枝
〃	佐々木典子	〃	小田橋恵子	〃	横山 利香
〃	見城 朋子	〃	富沢 訓子	〃	大淵たつ江
〃	小川 賢治	〃	片野 佑美	初 任 研 後 補 充	松井 和則
〃	荒平 幹雄	〃	武井 紀恵	用 務 員	霜下 猛
〃	土井 智穂	〃	吉本 光輝	事 務 補 助	村上 風貴
〃	外山 明子	養 護 教 諭	佐藤 敦子		

# 沼田北小学校

所在地 〒378-0056 沼田市高橋場町4898  
電話番号 0278-24-4123 FAX 0278-22-0782  
校長名 小野里 慶博

## I 学校の経営

### 1 学校教育目標

- (1) 基本目標 自ら学び、豊かな心とたくましい実践力を備えた児童の育成を目指す
- (2) 具体目標 〈目指す児童像〉 ○よくまなぶ子 ○心ゆたかな子 ○たくましい子  
スローガン『学び合い、認め合い、助け合う北小』

### 2 経営の方針

- (1) 全教職員が力を合わせて主体的・組織的に学校経営に参画する態勢の強化：**チーム北小**
- (2) 安全で安心な学習環境の整備と危機管理意識を育む安全教育の充実
- (3) 「よくまなぶ子」を育てるための、授業を核とした学習指導の工夫・改善
- (4) 「心ゆたかな子」を育てるための、道徳教育の充実と心の教育の推進
- (5) 「たくましい子」を育てるための、運動への主体的な取組と保健教育の推進
- (6) 家庭・地域・隣接小中学校との連携・協力…学社連携・学校間連携等の取組の充実

### 3 本年度の重点施策 【 】は沼田市独自施策との関連

- (1) 「チーム北小」の強化に向けて
  - ①職種に応じ専門職としての自覚と誇りをもった職務の遂行
  - ②すべての教職員が互いに関わって子どもを育てる意識の共有
  - ③一人一人の児童の実態に応じた指導・支援の共有と工夫
  - ④児童と向き合う時間増を目指した、校務のスリム化と組織的・計画的な学校運営
- (2) 安全で安心な学習環境の整備と危機管理意識の育成に向けて
  - ①状況に応じた感染症対策の見直しと対応
  - ②施設・設備の定期点検をもとにした校舎内外の整備
  - ③様々な状況を想定した危機管理体制の整備と危険予測・回避能力の育成【**セーフティ沼田**】
  - ④児童一人一人の健康に関する情報（既往症、アレルギー等）の共有と適切な指導・支援
- (3) 「よく学ぶ子」の育成に向けて〈学力向上C○をリーダーとした組織的・計画的な取組〉
  - ①「主体的・対話的で深い学び」の実現による、「できた・分かった」等の喜びをもたせる授業づくりの推進
  - ②学ぶ習慣と学び方を身に付ける「北っ子式学力アップ作戦」の充実
  - ③授業の質を高め組織的な指導体制を構築するための教科担任制の推進
  - ④1人1台コンピュータ等のICTの効果的な活用
- (4) 「心ゆたかな子」の育成に向けて〈「特別の教科道徳」を核とした道徳教育の推進〉
  - ①多面的な児童理解と積極的な生徒指導による「自己肯定感」「自己有用感」の育成
  - ②いじめを許さない心を育てるための子ども主体のいじめ防止活動の充実
  - ③「SOSの出し方・受け止め方」に関する教育の推進【**命を守り、育てる教育**】
  - ④「キマニド読書」の推進による読書活動の推進【**家族で本を読みましよう**】
- (5) 「たくましい子」の育成に向けて〈各種計画を核とした身体と心の健康の増進〉
  - ①家庭と連携した規則正しく、規律正しい生活習慣の育成
  - ②体力向上プランを核とした体力の向上と運動能力の育成
  - ③「姿勢をよくする体幹トレーニング」の推進
  - ④身体と心の健康を自分で守るための学校保健、食育、教育相談の推進
  - ⑤児童の挑戦の下支えとなる心（やる気、勇気、粘り強さ 等）と身体（体力）の育成
- (6) 家庭・地域・隣接小中学校との連携・協力に向けて
  - ①学校評価等を活かした家庭や地域との連携と協働による学校づくり
  - ②「学校支援センター」の機能を生かした学習ボランティアとの連携【**ふるさと学習**】
  - ③登下校の安全を確保するための「防犯パトロール隊」との連携
  - ④隣接幼小中学校との連携【**幼小中連携**】

# 令和5年度校内研修経過報告書

## 1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～  
主題 考えを深め合う北っ子の育成  
副主題 ～協働的な学びを充実させるための工夫を通して～

### 児童の実態との関わり

- ・昨年度の校内研修「主体的に体力の向上に取り組む北っ子の育成」を通して、体育だけでなく主体的に学習に取り組む児童を育成することができた。
- ・NRTやCRTの結果では、「主体的に取り組む態度」の得点率が高いが、「思考・判断・表現」に課題が見られる。

### 指導の在り方との関わり

- ・ICTを授業で活用し、「課題を見つける」「課題を解決する方法を考える」「見通しをもつ」ことで、主体的に学習に取り組む児童を育成できたが、「協働的な学びを充実させる」ことが不十分であった。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、考えを深め合う活動を充実させる必要がある。

## 2 研修内容・方法

### (1) 具体化した目指す児童像

- 【低学年】自分の考えをもち、自分と友達の考えの同じところや違うところに気付くことができる。
- 【中学年】自分と友達の考えを比較し、加除修正することができる。
- 【高学年】自分と友達の考えを比較し、加除修正しながら整理して、一般化することができる。

### (2) 具体化した目指す児童像を達成するための共通実践する手立て

- 手立て① 追求する過程では、「考えるための技法」を用いて、効果的に思考することができるようにする。
- 手立て② 協働的な学習では、個々の考えの発表にとどまらないよう、教師の働きかけにより子どもの考えをつないだり新たな視点を示したりして、考えがより深まったりまとめられたりするようにする。
- 手立て③ 協働的な学習により広がったり深まったりした考えを、個々が振り返り、学びを自覚できる時間を設定する。

## 3 研修計画・経過報告（裏面）

## 4 これまでの研修の成果と今後の取組

### ○成果

- ・「考えるための技法（思考を深める視点）」を「順序付け、比較、分類、関連付け、多面的・多角的、理由付け、見通し、具体化・抽象化」と設定し、確認しながら研究授業を積み重ねたことにより、児童が自分の考えをもち自分と友達の考えを比較し、加除修正しながら整理して考えを深めることにつなげることができた。
- ・教師が「受容・共感、切り返し、ゆさぶり、問い返し」などの働きかけをすることで、子どもの考えがより深まったり、まとめられたりできるようになる場面が増えた。

### ●課題

- ・本時で目指す姿を「考えを深めている姿」として設定できないことがあった。
- ・考えが深まる児童の考えを意図的に指名したり、児童の考えがより深まるように、働きかけ（揺さぶり・問いかけ、切り返しなど）をしたりすることができない場面があった。
- ・追求する過程（協働的な学習の場面）に時間がかかり、個々が振り返り、学びを自覚できる時間を確保することができないことがあった。

### ◇課題解決に向けた今後の取組

- ・教科の特性や見方・考え方を踏まえて、目指す姿を設定する必要がある。
- ・机間支援をしたりタブレットを使って考えを提出させたりして児童一人一人の考えを把握し、その上で意図的な指名や働きかけをしていく必要がある。
- ・児童の目指す姿（考えを深めている姿）に到達するために、追求する過程（協働的な学習の場面）での児童の到達度を設定して時間を区切り、個々が振り返り、学びを自覚できる時間を確保する。

### 3 研修計画・経過報告

指は指導案検討 授は研究授業・授業研究会

月・日	研修計画		経過報告
			○目指す姿（考えを深めている姿） ◎共通実践する手立ての成果
04.17	研修①推	今年度の研修計画立案	・研修主題と「協働的な学び」の確認
04.24	研修②全	今年度の研修の方向性の確認	・研修主題と「協働的な学び」の確認
04.20		研修主任会	・沼田市内小中学校の研究主任との情報交換
05.24	研修③全	目指す児童像の確認 指導主事訪問Aの準備 学力向上研修①	・目指す児童と、指導案作成形式の確認
06.14	研修④全	代表授業者の決定 1人1授業の計画作り	・沼田市教育水準向上公開授業の代表授業者決定
06.20		授指導主事A訪問	・研究授業、授業研究会
07.05	研修⑤全	I C T活用能力向上研修①	・ロイロノート・スクールの基本的な使い方
08.23		学力向上研修②	・イニシアティブゲーム研修
08.30	研修⑥全	I C T活用能力向上研修② 公開授業、B訪問に向けての指導案作りと教材準備	・ロイロノート・スクールの応用的な使い方
09.11		授1人1授業 2年1組 算数 真下一平教諭	○自分の考えと友達のことを比べて、同じところや違うところに気付くことができる。 ◎自分の計算の仕方を写真にとって提出させることで、児童は友達のことを比較して、自分の考えとの違いや共通点に気付くことができた。
09.20	研修⑦全	指公開授業指導案検討	・公開授業学習指導案の検討
09.26		授1人1授業 なかよし 自立活動 小尾浩三教諭	○なぐりかきから絵をつないで、1つのお話を作っている。 ◎なぐりがきから発想を膨らませて完成させた5枚の絵をつなぐことを通して、1つのお話を作ることができた。
09.29		授1人1授業 6年1組 英語 内田明子教諭	○夏休みの思い出に感想を加えて伝えている。 ◎タブレットの発表メモを使って発表させることで、伝えたいと感じている事実やその感想を見通しをもって伝えることができた。メモを見て、即興的に英語で伝えることができた。
10.10		授1人1授業 3年1組 学活 荒木麻弥教諭	○友達から出された意見を比較して、できるだけ多くの意見のよさを生かして考え、合意形成を図ろうとしている。 ◎意見をまとめる場面で、児童の話合いが止まってしまったとき、活用できそうな合意形成カードについて言葉掛けをすることで、児童は友達の意見のよさを生かして折り合いを付けようと努めることができた。
10.17		授1人1授業 5年1組 理科 星野理恵子教諭	○流れる場所による川や川原の様子の違いについて問題を見だし、課題を設定している。 ◎違いに気付かせるために、比べる視点（水、石など）を考えさせたり、4年生で学習した雨の流れ方を想起させたりする問いかけをしていた。
10.25	研修⑧全	指公開授業準備	・公開授業学習指導案の最終確認
10.30		授1人1授業 6年1組 国語 深津美帆教諭	○考えを効果的に伝えるための表現や文の構成について考えることができる。 ◎3つの視点を与えることで、筆者の表現の工夫について整理して考えることができていた。グループで友達の考えと自分の考えを比べてジャムボードにまとめることで、共通する部分を確認することができた。
10.31		授1人1授業 3年2組 算数 林 美里教諭	○69÷3の計算の仕方を既習の除法計算の仕方や数の構成を基に考え、説明している。 ◎10の束とばらの紙を操作して考えるシートをタブレット上に作成したことで、全員が自立解決できた。全員が自分の考えをもっていたので、自分の考えと友達の考えを比較して考えることができた。
11.09		授1人1授業 1年1組 算数 角田淑子教諭	○減加法と減々法の計算の仕方のよさを考えることができる。 ◎減加法、減々法の計算の仕方を、計算ブロック、図、さくらんぼ計算図など、様々な書き方をさせて比較させることで、それぞれ考え方が共通していることに気付かせることができた。

指は指導案検討 授は研究授業・授業研究会

月・日	研修計画 [内容]		経過報告 ○目指す姿 (考えを深めている姿) ◎共通実践する手立ての成果
11.10	授	1人1授業 5年1組 社会 真庭秀樹教諭	○工業生産と貿易や運輸の働きを関連付けて貿易や運輸が工業生産に果たす役割を考えている。 ◎思考を深める視点を「関連付け」としたことで、既習事項を想起して考えることができた。
11.16	授	沼田市教育水準向上研修公開授業 1年2組 算数 小林拓美教諭	○減加法と減々法の計算の仕方のよさを考えることができる。 ◎減加法、減々法の計算の仕方を、計算ブロック、図、さくらんぼ計算図など、様々な書き方をさせて比較させることで、それぞれ考え方の共通している部分やよい部分に気付かせることができた。 ○音楽づくりの発想を得ることができる。 ◎自分の班と他の班を比較し、工夫されている点を発言させることで、新たな発想に気付かせることができた。 ○資料の役割と効果について考えることができる。 ◎資料を選んだ理由だけでなく、選ばなかった理由を考えさせることで、役割と効果について多面的に捉えさせることができた。 ○発表会の流れや役割分担を話し合っ決めて、リハーサルを行い、本番に向けて良いところを伝え合いながら発表練習をすることができる。 ◎めあて、話し方・聞き方のポイント、話す順序などが視覚で分かるように掲示することで、児童は見通しをもって発表練習をすることができた。
		4年1組 音楽 白岩良子教諭	
		5年1組 国語 藤井剛史教諭	
		わかば 立脚 角田 泉教諭	
12.08	授	1人1授業 6年2組 算数 上山和真教諭	○データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について考えている。 ◎個別で考えた後に学習のめあてを再認識させることで、他チームとの比較が不可欠であることに気付くことができた。
冬季休業中		年間指導計画の修正、教材整理	・年間指導計画の修正、教材整理
01.15	研修⑨全	来年度の研修主題について	・研修主題、研修内容等の選定
01.31	研修⑩推	来年度の研修主題について	・研修主題、研修内容等の選定
02.14		授 1人1授業 通級指導 国語 林 昭恵教諭	・研究授業、授業研究会
	研修⑪全	学力向上研修②・特別支援研修	・学力向上研修、特別支援教育研修

※資質向上研修

月・日	区分	講師	内容
05.24	学力向上研修①	学力向上C	・学力向上の取組、学力検査分析
05.31	保健研修①	養護教諭	・食物アレルギーやエピペンの使い方
06.29	保健研修②	外部講師	・心肺蘇生法研修
07.05	ICT活用能力向上研修①	情報・研修主任	・ロイロノート・スクールの基本的な使い方
08.22	学力向上研修②	外部講師	・イニシアティブゲーム研修
08.30	ICT活用能力向上研修②	情報・研修主任	・ロイロノート・スクールの応用的な使い方
02.14	学力向上研修③ 特別支援研修	学力向上C 特別支援教育C	・学力検査結果考察による児童の実態把握と指導改善 ・各学級における支援を要する児童への合理的配慮

(職員一覧)

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	小野里 慶博	教諭	角田 泉	教諭	川端 まゆみ
教頭	吉野 こず恵	教諭	真下 一平	養護教諭	小林 真奈美
教諭	真庭 秀樹	教諭	荒木 麻弥	主幹事務長代理	川浦 博史
教諭	角田 淑子	教諭	本多 真美	用務員	田村 健司
教諭	藤井 剛史	教諭	上山 和真	生活相談員	大竹 順子
教諭	白岩 良子	教諭	小尾 浩三	学習支援員	塩野 美喜
教諭	林 昭恵	教諭	星野 理恵子	学習支援員	國井 みゆき
教諭	深津 美帆	教諭	内田 明子	学習支援員	中澤 京子
教諭	小林 拓美	教諭	林 美里	教員業務支援員	戸部 成実

# 升形小学校

所在地 〒378-0014 沼田市栄町141番地  
電話番号 0278-22-3107 FAX 22-0783  
校長名 阿部 かおる

## I 学校の経営

### 1 学校の教育目標

基本目標 夢をもち、自ら学び心豊かにたくましく生きる児童の育成

- 具体目標 ○進んで学ぶ子 (自ら学び、よく考える子)  
○思いやりのある子 (相手の気持ちを考え、仲良くできる子)  
○ねばり強い子 (心身共に健康で、最後までがんばる子)

### 2 経営方針

《目指す学校像》 「かしこく なかよく 元気よく」  
子どもが輝き、今日が楽しく、明日が待たれる学校

《目指す教師像》

- やる気と情熱をもち、子どものよさを伸ばす教師  
○組織的に取り組み、学び合う教師  
○児童、保護者、地域を大切にし、信頼される教師

《学校経営の方針》

- 全教職員が力を合わせて主体的・組織的に学校経営に参画する態勢の強化  
○「進んで学ぶ子」を育てるための、授業を核とした学習指導の工夫・改善  
○「思いやりのある子」を育てるための、道徳教育の充実と心の教育の推進  
○「ねばり強い子」を育てるための、運動への主体的な取組と保健教育の推進  
○一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進  
○地域とともにある学校づくりを目指した、家庭や地域との連携・協働

### 3 本年度の重点施策

#### (1) 学校経営の充実

- ・教職員の協働体制を高め、組織で取り組む温かく活力に満ちた学校・学級経営の充実を図る。
- ・報告・連絡・相談を密にし、お互いに声を掛け合い、日常的に情報交換ができる明るく風通しのよい職場をつくる。
- ・「群馬県教員育成指標」を基に、キャリア段階に応じた職能成長を図り、組織の活性化に取り組む。

#### (2) 確かな学力の育成

- ・培う力を明確にした探究型授業（めあて、見通し、振り返り）を確実に実施し、児童が自ら学ぶ力を育成する。 【振り返り学習のすすめ】
- ・的確な学習状況の把握と個に応じたきめ細かな指導（指導と評価の一体化）を充実させることで、学級全体の学びに向かう力を高め、粘り強く学習に取り組ませる。
- ・指導のねらいを踏まえて一人一台端末等 ICT を効果的に活用し、身に付けさせたい資質・能力を育成する。

#### (3) 豊かな人間性の育成

- ・学校行事や異学年交流において児童が活躍する場面を設定し、自己有用感を高めるとともに、自他のよさを認め合う人間関係を形成する。
- ・「考え・議論する」道徳科への質的転換に向け、ねらいとする道徳的価値の理解を基に、児童が多面的・多角的に考えることを視点として授業を工夫・改善する。 【道徳教育】
- ・人権教育と生命を尊重し力強く生き抜こうとする心を育てる指導の充実により、いじめや差別を許さない心を育てる。 【児童生徒の命を守り育てる教育】
- ・明るいあいさつと返事、適切な言葉の指導、規範意識を育成する。

#### (4) 健やかな体の育成

- ・新型コロナウイルス感染症予防と児童の心のケアを徹底し、「新しい生活様式」を踏まえた教育活動を継続する。
- ・「早寝・早起き・朝ごはん」の励行、「元気ウィーク」「升形ますます元気の日」を生かし、基本的生活習慣を確立する。
- ・体力向上プランを活用し、運動の楽しさと喜びを味わわせる教科体育や体力づくりを実践する。

#### (5) 特別支援教育の充実

- ・個別の指導計画に基づき、個々の教育的ニーズに応じた支援について学校全体で共通理解する。
- ・保護者との情報共有や専門家・関係機関との連携に努め、支援の効果を高める。
- ・教職員の専門性を高め、通常学級における指導の改善を図る（学習のエバー・サルデザイン）。

#### (6) 地域とともにある学校づくり

- ・地域とともにある学校づくりに向けて、家庭・地域との連携を強化し、地域学校協働活動を推進するための仕組みを整備する。
- ・総合的な学習の時間を中心として、明確なねらいのもとに、地域の人的・物的資源（人・もの・こと）を積極的に活用し、地域学習や体験活動を充実させる。 【沼田大好き！ふるさと学習】
- ・学びの連続性を意識し、隣接する幼稚園、中学校、高校との交流や連携を進め、異年齢集団との教育活動を充実させる。 【幼小中連携】

## II 校内研修の推進

### 1 研修主題及び設定の理由

#### ～研修主題～

主題 自ら考え表現できる児童の育成  
副主題 ～各教科等の自力・集団解決の場における対話的な活動の工夫を通して～

#### 児童の実態との関わり

・課題解決の見通しをもって、自分の考えをもつことはできるが、それを言葉や図などで適切に表したり、まとめたりすることに課題がある。  
・話型などに沿って、自分の考えを伝えようとすることはできるが、考えの中心となることをはっきりさせて説明することに課題がある。  
・友達の考えを比較して考えたり、新しい考えのよさを取り入れたりしながら、自分の考えを深めたり、深まった考えについて表現したりすることが難しい。

#### 指導の在り方との関わり

・自力解決に多くの時間が取られてしまい、自力解決と集団解決の時間配分が偏ることがある。  
・他者に向けて表現することの意義を理解させた上で、考えを筋道立てたり、理由や根拠をはっきりさせたりしながら、伝えることができるように指導を工夫する必要がある。  
・児童の考えを共有・比較するための視点が明確にならず、友達の考えやよりよい考えについて、考えを深められるまでには至っていない。

### 2 研修内容・方法

#### (1) 具体化した目指す児童像

課題解決に向けて、自分の考えをもち、分かるように伝えることができる児童

【低学年】 課題解決に向けて、自分の考えをもち、順序を考えて表現することができる児童

【中学年】 課題解決に向けて、自分の考えをもち、目的に応じて理由とともに表現することができる児童

【高学年】 課題解決に向けて、根拠をはっきりさせて自分の考えをもち、筋道立てて表現することができる児童

#### (2) 具体化した目指す児童像を達成するための共通実践する手立て

- ・自力解決の場において、児童がどのような考えをもつかを把握した上で、課題解決の見通しをもたせるとともに、目的などに応じた表現の方法を提示する。
- ・集団解決の場において、自分の考えを互いに表現し合えるような対話や話し合いなどの対話的な活動を取り入れるとともに、考えを共有・比較するための視点を明確にする。

### 3 研修計画・経過報告 <裏面>

### 4 これまでの研修の成果と今後の取組

#### ○成果

- ・既習の内容の振り返りや思考の助けとなるヒントカードの提示、表現方法の提示によって、児童が課題解決への見通しをもち、自分の考えをもつことに生かすことができた。
- ・自力解決と集団解決のバランスを意識した時間配分により、集団解決の場で児童が考えを共有したり、比較したりすることができるようになった。
- ・ICT を自力解決や集団解決に活用することで、児童が互いの考えを共有・比較しながら、対話的な活動を行い、考えをまとめたり表現したりすることができるようになった。
- ・個→集団→個、個→少人数→集団、また話すから書くへという流れを作ることで、対話的な活動を挟みながら、児童が段階的に考えを深めていくことができるようになった。

#### ○課題

- ・ICT の活用によって、考えを表現したり、互いの考えを理解したりすることが容易になる場合が多かったが、一人一台端末を操作する際の個人差が学習活動に影響する場合もあった。
- ・互いの考えを比較することはできるようになってきているが、自分の考えを深めたり、深まった考えについて表現したりすることが十分ではない。

#### ○課題解決に向けての今後の取組







- ・一人一台端末など ICT ツールの効果的な活用についてさらに工夫が必要である。
- ・集団解決の場での切り返しやつなぎなど、教師の働きかけをさらに工夫していくことにより、考えを広げたり深めたりする集団解決の充実を図る必要がある。
- ・深まった考えについて表現する場の設定や考えの深まりを児童が自覚できるような振り返りの工夫が必要である。

### 3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
4.24	・研修主題・内容・方法・ についての検討	○研修主題・内容・方法について ・共通理解の下に対話的な活動を取り入れた授業実践を行い、成果と課題を積み重ねていく。
5.8	・研修内容・計画の検討	○授業実践の進め方について ・ブロックごとに、計画的に研究授業や授業研究会を行い、実践を積み重ねていく。
5.26	<指導主事訪問A> ・研修の意義・進め方の理解	○研修の内容・進め方について ・手立てを明確にして実践を行い、具体的な姿を焦点化して、授業を検証していく。
6.19	・評価について	○学習評価について ・指導に生かす評価と評定に用いる評価をする場面を熟考し評価することが重要である。
6.29	・授業実践 (全体会) 2年算数科 「3けたの数」 授 青木教諭 	○ICTを用いた表現活動の有効性について (成果) ・ヒントカードが課題解決への見通しをもたせるとともに、表現方法を提示することに有効だった。 ・対話的な活動がペア、全体、またペアと多く取り入れられ、考えを深めることができた。 ・考えが書かれたノートを写真で提出させ、全体での説明に用いたことが、児童が考えを分かりやすく表現することにつながった。 (課題) ・児童が自分にとって適切なヒントカードを活用することができるように、提示する場面や方法を考える必要がある。
7.12	・授業実践 5年国語科 「季節の言葉2 夏の夜」 授 石井教諭	○思考ツールや共有ノートを用いた対話的な活動の有効性について ・有効と思われる思考のための手段を用いながら対話的な活動を取り入れることが重要である。
夏季休業中	・授業構想 (各学年) ・研究の内容の確認	
8.22	・授業実践について	○授業実践の計画について ・目指す児童像を意識しながら授業実践を積み重ねていく。
9.4	・指 B訪問授業 検討①	○授業のねらいと児童の姿について ・本時でねらうべきことと授業内で目指すべき児童の姿から、展開を考えていくことが重要である。
9.27	・授業実践 3年音楽科 「曲のかんじを生かそう」 授 上原教諭	○思考や表現を促す視点の提示について ・視点をはっきりと提示することは、児童の思考や表現を促すことに有効である。
10.2	・指 B訪問授業 検討②	○本時における自力解決と集団解決の方法について ・自力解決と集団解決におけるICTの活用の仕方について精査する必要がある。
10.6	・授業実践 1年国語科 「海のかくれんぼ」 授 戸部教諭	○思考を深める対話的な活動の流れについて ・個→少人数・個→集団や、話す→書くなど、思考を深めることができるような、段階を踏んだ流れが重要である。
10.23	・指 B訪問授業 検討③	○指導計画における過程に応じためあてと振り返りについて ・計画中の過程に応じてめあてや振り返りを設定する必要がある。
11.10	・授業実践 3年理科 「光と音の性質」 授 諸田教諭	○対話的な活動における考えを伝え合う手立ての有効性について ・自分の考えをもった上で、役割分担の仕方や話合いの流れを提示することは、話合いを深める上で有効である。
11.15	・授 指導主事訪問B (全体会) ・4年算数科 「四角形の特徴を調べよう」	○共有ノートを用いた対話的な活動の有効性について (成果) ・ロイロノートの操作について、色や線の太さなど細かく指示をし、考えを分かりやすく表現できるようにした上で、共有ノートを用いて



		<p>ペアで考えを表現させたことにより、ペアで確認したり対話をしたりしながら、考えを表現することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が ICT ツールの使い方を身に付けており、ICT の利点を生かして、学習活動や適用問題を適切に解決することができた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一台端末と板書などを併用し、確実な理解につなげる必要がある。</li> <li>・どのような対話をさせたいかを具体的に想像して、広がりのある考え方が生まれるよう、活動の内容を精査していく必要がある。</li> <li>・本時のねらいと児童の反応を考え、それに適した適用問題を検討する必要がある。</li> </ul>
11.17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業実践 6年算数科「比例と反比例」</li> </ul> 	<p>○対話的な活動における考えを比較する手立ての有効性について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT を用いることで考えの違いを分かりやすくするとともに、さらにその違いについて話し合いを深めていくことが重要である。</li> </ul>
11.27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践の課題の確認</li> </ul>	<p>○授業実践の課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各授業実践で明らかになった課題について、解決に向けて工夫をしていく必要がある。</li> </ul>
12.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業実践 2年体育科「ボールゲーム」</li> </ul> 	<p>○視点をもたせた対話的な活動の有効性について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの視点を明らかにした上で、ICT を用いて視覚的に考えを表現することは動きの実践につなげていく上で有効である。</li> </ul>
12.15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業実践 特支自立活動「気持ちをコントロールする技を見つけよう」</li> </ul> 	<p>○個のめあてを達成するための授業の組立てについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個のめあてを設定し、視覚的な効果のある教材や方法を用いながら対話的な活動をすることは、めあてを達成させる上で有効である。</li> </ul>
12.19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業実践 特支自立活動「気持ちについて考えよう」</li> </ul> 	<p>○めあてを達成するための教師の支援の有効性について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・めあての達成を図るために、活動の工夫をするとともに、教師の適切な支援により児童の活動や思考を促すことが重要である。</li> </ul>
12.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業実践 特支生活単元「お手伝い作戦」</li> </ul> 	<p>○実践につなげるための活動の工夫について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイなど動きをイメージさせるような活動は、学習したことを実践につなげていく上で有効である。</li> </ul>
1.29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修経過の確認</li> </ul>	
2.13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修のまとめ</li> </ul>	
3.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度の研修について</li> </ul>	

#### ※資質向上研修

月日	区分	講師	内容
4.6	食物アレルギー対応	養護教諭	・エピペンの使用方法
5.30	服務規律	市教委	・服務規律などについて
7.20	食物アレルギー対応	養護教諭	・アレルギー反応シュミレーション訓練
8.22	ICT教育	外部講師	・ロイロノートの活用について
1.18	特別支援教育研修	外部講師	

#### <職員一覧>

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	阿部 かおる	教諭	登坂 厚子	非常勤(総務)	小林 美緒奈
教頭	七五三木 宏	教諭	篠原 恭代	非常勤(理科)	小野 修一
教諭	上原 純子	教諭	角田 順子	スクールカウンセラー	小林 一郎
教諭	戸部 栄子	教諭	吉澤 早紀	生活相談員	大竹 ゆかり
教諭	青木 和成	教諭	倉品 健	学校教育支援員	今井 由香
教諭	諸田 香奈	教諭	阿部 亮一	学校教育支援員	星野 律子
教諭	小池 寿久	養護教諭	本郷 郁香	用務員	熊澤 正幸
教諭	石井 千恵美	事務主事	星野 久実子		

# 利 南 東 小 学 校

所在地 〒378-0003 沼田市上久屋町2135番地  
電話番号 0278-22-3006 FAX 22-0784  
校長名 大竹 敏之

## I 学校の経営

### 1 学校の教育目標

- 【基本目標】 社会の変化に主体的に対応できる豊かな心、高い知性、強い意志を備え、生き生きと自己表現でき、心身ともにたくましい実践力のある子どもを育成する。
- 【具体目標】 ○すすんで勉強する子（自ら考え進んで勉強する子）  
○思いやりのある子（他人の気持ちになって考え、助け合う子）  
○心身ともに健康な子（元気に明るく毎日を過ごせる子）  
○ねばり強くやりぬく子（目標を持ってしっかりがんばれる子）

### 2 経営方針

#### (1) 目指す学校像 『自信と誇りにあふれた学校』

- 【TONAMIプライド】（「じぶん・ともだち・がっこう・となみ」のいいところ）
- ①子どもが自分に自信をもち、友達・学校・地域を誇りに思う学校
  - ②教師が、子ども・学校・地域を誇りに思う学校
  - ③子どもを一番に考える学校（子どもの目線・子どもファースト）
  - ④保護者・地域から応援・自慢される学校
- R5手立ての重点として「つなぐ」をキーワードに以下の視点を相互に関連させる。  
「ひと」をつなぐ 「子ども」 ↔ 「教師」 ↔ 「保護者・地域」  
「学び」をつなぐ 「教科・教材」 ↔ 「特活」 ↔ 「総合」 ↔ 「行事」

#### (2) 目指す教師像 『子どものよさを見つけ、ほめることを考える教師』

- ①互いに気遣い、「自分のこと」として考える教師
- ②理論だけでなく「まず動く」教師（率先垂範・師弟同行）
- ③本質を見つめ、「目的と手段」を区別する教師

### 3 本年度の重点施策

#### (1) ICTを活用した確かな学力の向上（「知識・技能」と「自分の考え」を両輪に）

- ・繰り返し学習の徹底による「基礎的な知識・技能」の確実な定着
- ・「自分の考えや思い」を出発点にした問題解決的な学習（同一過程：TONAMIスタイル）の継続的な実践による思考力・表現力の育成
- ・教科担当制の活用による専門性を生かした指導の向上と多面的な生徒指導の充実
- ・専科教員とALTの積極的・計画的な協働による外国語活動及び外国語科の授業の充実
- ・家庭との積極的な連携による自主的な学習習慣の確立

#### (2) 安全の確保と健康の保持増進（子どもの命を徹底的に守る）

- ・命を守るため、登下校と緊急時の安全確保（通学路の安全点検・登下校の行動指導）
- ・新型コロナウイルス等、感染症対策の徹底（保健活動の充実・家庭との連携強化）
- ・全校体制による「体力向上プラン」の計画的な推進（運動機会の意図的な設定による運動量の確保）

#### (3) 豊かな心の育成

- ・自分に自信をもつ指導の推進（自己肯定感・自己有用感を高める指導と支援「得意・好き・やりたい」
- ・「考え議論する道徳」の一層の充実（教材研究の深化と考えを揺さぶる発問の意図的な設定）
- ・特支コーディネーターを中心に、全教職員が参加意識をもって組織的に関わる特別支援教育の充実
- ・「集団の合意形成」と「個人の意志決定」を重視した学級活動の計画的な実施

#### (4) 家庭・地域、幼・中との連携

- ・保護者との意図的・積極的・計画的な連携（互いに顔が見える関わりの充実）
- ・各種たよりやWebページによる家庭や地域への情報発信の充実
- ・「地域で育てる地域の学校」の実現（PTA・学校支援ボランティアとの協働）
- ・外部機関と積極的に連携した教育相談の充実（SC・SV・SSW・福祉部局）

#### (5) 全教職員の経営参画と職能成長

- ・各主任が中核となる組織的な分掌運営の充実と目的を重視したコーディネーター意識の向上
- ・組織的で日常的な情報共有と迅速な対応の実現（危機意識、報告・連絡・相談・確認・記録）
- ・教育公務員としての高い倫理観と日常における服務規律意識の向上（子どもに背中を語る教師）
- ・業務削減と効率化、働き方改革の継続と一層の充実（時間外勤務の削減と退庁時刻管理の徹底）

## II 校内研修の推進

### 1 研修主題及び設定の理由

#### ～研修主題～

主題 自ら考え、共に学びを深められる児童の育成

副主題 ～「思考の深まり」に視点を当てた一人一台端末の活用を通して～

#### 児童生徒の実態との関わり

- ・具体的なゴールが見えると、見通しをもって取り組める。
- ・既習事項を使って新たな課題を解決しようとする姿勢が身についてきている。
- ・基礎的・基本的な学習内容の定着が一時的なものであったり、活用につながらなかったりする児童がいる。
- ・各学級・学年間で教科等により学力差がみられる。学力差を解消し、全員の児童が「深い学び」を実現することが課題である。

#### 指導の在り方との関わり

- ・全員の児童に課題解決に向けて見通しをもたせ、学びに向かわせていくために、昨年度から実践しているTONAMIスタイルによる授業展開に努めていく。
- ・より「深い学び」を実現していくために、一人一台端末(以下、端末)の有効的な活用を焦点を当てて、指導・支援を重ねていく。

### 2 研修内容・方法

#### (1) 具体化した目指す児童像

【低学年】既習事項や根拠を基に、自分の考えや思いをもち、相手の話をよく聞いて、考えの共通点や相違点に気付くことができる。

【高学年】既習事項や根拠を基に、自分の考えや思いをもち、相手の考えのよさを取り入れて、考えを広げたり深めたりできる。

【特別支援】既習事項や根拠を基に、自分の考えや思いをもち、表現することができる。

#### (2) 共通実践する手立て

- ・基礎的・基本的な知識・技能を基盤にした問題解決的な学習過程「TONAMI スタイル」を共通する学習過程として取り入れる。
- ・「TONAMI スタイル」の思考場面において、学習のねらいや児童の実態に応じて、端末を意図的に計画的に活用し、児童に身に付けさせたい「資質・能力」の向上を図っていく。
- ・教科等の指導にかかわる全職員が授業を公開し、研究授業に当たっては端末の活用が児童の思考の深まりにどのように有効であったかに視点を絞り授業改善の手がかりとしていく。

### 3 研修計画・経過報告 〈裏面〉

### 4 これまでの研修の成果と今後の取組

#### ○成果

- ・友達との交流活動を通して、他者の考えを見たり聞いたりしたことは、活発な話し合いや多面的な理解につながり、児童の思考を深める上で有効であった。
- ・端末を活用して、可視化、共有化、協働化を組み合わせることにより、児童がねらいに即して課題について調べたり自分の考えを伝えたりするなど、主体的に学習に取り組む姿が見られるようになってきた。

#### ○課題

- ・全員の児童が「深い学び」を実現するためには、根拠を明らかにして自らの考えをよりよいものに再構築する場面と、交流活動をセットにして展開する必要がある。

#### ○課題解決に向けての今後の取組

- ・交流活動では、相違点に着目させるなど交流の視点を工夫することで、自らの考えに生かすことができるよう、活動の質の向上を図る。

### Ⅲ 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画〔内容〕	経過報告〔○研究の視点(上段)・明らかになったこと(下段)〕
4. 10	研修推進委員会	○研修主題・副主題・研修計画の原案作成、研修計画の検討。
4. 24	・研修計画の検討	○研究の内容と方法等、指導案の形式についての確認。
5. 22	・指導主事訪問 A の共通理解	○校内研修計画の確認、研究の内容や方法等の検討。
6. 12	授 4年 音楽 尾形あや教諭 「歌声のひびきを感じ取ろう」 (高学年部会)	○ロイロノート(以下ロイロ)の音声再生機能を活用して、作った旋律を即興的に試したり、友だちの作った旋律と合わせて演奏したりしたことは効果的であったか。 ・音声再生機能の活用は、個人の活動場面で音を聞いたり確認したりすることができ、有効である。
6. 28	授 1年 道徳 林さとみ教諭 「わがままばかりしていると」 (低学年部会)	○規則正しい生活をする事の大切さについて、ロイロのカメラ機能を使って自分の考えが書かれたワークシートを提出し、主人公の気持ちや表情について全体で交流したことは効果的であったか。 ・ワークシートに書かせた児童の考えをカメラ機能で撮影・提出させ、全体で共有したことは、多面的・多角的な見方や考え方をもつことにつながった。
7. 4	授 通級 自立 小林庸子教諭 「読んで、書いて、パワーアップしよう！」 (特支部会)	○教科指導にデジタル教科書を使用して教材文の理解を促したことは、自分にとっての「読み取りやすさ」を知り、学習活動に対する意欲を高めやり遂げるという体験を積ませるために有効であったか。 ・デジタル教科書を使うことで、読みやすくなるような環境を整える方法を児童が知ることができ、内容理解が深まり活動に取り組むことができた。
7. 7	授 わかば(情緒)自立 林路代教諭 「自分の気持ちを伝え合おう」 (特支部会)	○ ICT 機器を利用して前時を振り返ったり、話型を示したりしたことは、自分の考えを伝え合うのに有効であったか。 ・児童が提出したお助けカードを大型モニターで共有したことは、他の児童の意見を意識できたり、安心感を与えたりできた。話型があったので、児童が安心してゲームに取り組み、発話ができた。
7. 10	授 6年 国語 吉野幸恵教諭 「本は友達」 (高学年部会)	○ロイロで本に関するアンケートに答えたり、結果を見たりしたことは、児童が自分と本との関わりについて考え、読書の価値に気付くのに有効であったか。 ・アンケートで、質問の中にある読書を価値づける言葉を児童は自然と吸収し、自分の考えをまとめる際の参考にし、授業がねらい通りに進んだ。
夏期休業(個人研修)		○一人一授業の計画、教材研究、指導案作成等。
9. 6	授 わかば(情緒)算数 河田志徳教諭 「拡大図と縮図」 (特支部会)	○拡大図の描き方を考えるために、ロイロを使って考えを共有したり、様々な方法で作図できることを友だちに発表したりすることは有効であったか。 ・ロイロに提出した図を使って描き方を説明させることで、考えを共有し、様々な方法で作図すること及び、友だちに発表することは有効であった。
9. 11	研修推進委員会	○研修計画の再確認。
9. 15	授 2年 国語 大関一久教諭 「読んで考えたことを話そう」(低学年部会)	○獣医の一日の仕事について日記風に書かれた文章をばらばらにして提示し、ロイロを使って正しい順序にする学習は、児童の思考の深まりに役立ったか。 ・順序を入れ替えて考えたり、その意見を他の児童と見合ったり、全体で共有したりしたことにより、思考の深まりが感じられた。
9. 25	授 6年 理科 星野勇教諭 「月の形と太陽」 (高学年部会)	○月の満ち欠けのようすを、個々の児童にタブレットの天体シミュレーションアプリを使って調べさせたことは、その共通性や規則性を理解させるために有効であったか。 ・班の中で、違う日付で調べさせることで、発見につなげることができた。
9. 25	指 B 訪問指導案検討①	○各ブロックごとに、B 訪問指導案の授業の視点や本時の展開について検討。
10. 4	授 わかば(知的)算数 阿左見成美教諭 「たしざんとひきざん」 (特支部会)	○問題文から適切に立式することや、位をそろえて筆算をつくるために、ロイロのテキストカードを活用して、数字を動かしながら立式したことは効果的であったか。 ・ロイロ上でカードを操作して立式したことで、立式するために必要な部分を意識させることができ、画面共有で他者の考えを共有することに有効であった。
10. 10	授 わかば(知的)国語 杉島和佳教諭 「おむすびころりん」 (特支部会)	○自分の音読を振り返るために、ロイロの録音・再生機能を活用して、声の大きさや読む速さを工夫して録音したり、音読発表会を設定したりしたことは効果的であったか。 ・個の実態に合わせて、音読・録音させる部分を調整することで、集中して取り組んでいた。録音を共有したことで、声の大きさや速さに注目でき、

		意識して音読することができた。
10.13	授 5年 国語 桑原成海教諭 「よりよい学校生活のために」 (高学年部会)	○よりよい学校生活のための議題を決める際に、ロイロの思考ツールを活用してグループでの意見を共有、集約したことは自分の考えや班での話し合いを深めるために効果的であったか。 ・共有ノートを使うことで意見を出しやすかった。ダイヤモンドランキングの活用により、班の意見を理解しやすく、話し合いが活発になっていた。
10.16	授 5年 保健 佐伯悠教諭 「けがの防止」 (高学年部会)	○ロイロでけがに関するアンケートに答えたり、結果を見合ったりしたことや、Dマークコンテンツを使って話し合ったことは、事故やけがの原因に気付かせることに有効であったか。 ・ICTの活用について、必要な場面に効果的に組みこむことができていた。児童の学習意欲の向上や、理解・思考の深まりにつながられた。
10.16	指 B訪問指導案検討②	○全体でB訪問指導案の授業の視点や本時の展開の確認・検討。
10.17	授わかば(情緒)算数 原泰章教諭 「かけ算の筆算」 (特支部会)	○繰り上がりのあるかけ算の筆算の計算方法を理解させるために、ロイロやプリントを使ったことは有効であったか。 ・繰り上がりの場所や、位取りが分かりやすい計算シートが、児童の実態に合っていた。大型モニターに映し出すことで、児童の注意を引き、指示や質問が通った。
10.23	授 3年 学活 関真美教諭 「読書の幅を広げよう」 (全体会)	○自分の読書のめあてを決めるために、本の分類のよさをロイロの共有ノートを活用してグループや学級全体で共有したことは効果的であったか。 ・共有ノートを使うことで、友達が見つけた分類のよさを全体的に見ることができる。他の児童の書き方を見ることができ、書き方を理解して考えを書いている児童もいた。
11.7	授 2年 道徳 本田千結教諭 「すなおな心で」 (低学年部会)	○素直になることのよさについて、自分の考えを深めるために、ロイロノートで自分の考えや振り返りを全体共有したことは有効であったか。 ・ロイロの活用により、児童が他者の多様な意見を知ることができた。思考を深めるためには児童の実態に応じた活用の方法を考える必要がある。
11.28	授 4年 学活 小野露葉教諭 「読書の幅を広げよう」 (全体会)	○読書活動の幅を広げるために、ロイロの共有ノートを使い、班で交流したことは、意思決定するために効果的であったか。 ・導入の場面で、実際に本を見せながら紹介をしたことで、児童が興味を示し、活動に対して積極的に取り組めた。 ・班で共有ノートを使い、どのような人におすすめか考えたことで、児童が思考を深めることができた。
12.4	・指導主事訪問 Bの 共通理解	○指導主事訪問 Bの共通理解と今年度を振り返って。
1.22	・研修のまとめ	○今年度の研修のまとめと次年度の方向等について。 ・「沼田市の教育」について
2.19	研修推進委員会 ・次年度の研修について	○次年度の研修主題・副主題の仮決定。
3.11	・次年度の研修の方向性について	○校内研修の成果と課題についての確認。 ・今年度の成果と課題の共通理解 ・次年度の方向性確認

〈職員一覧〉

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	大竹敏之	教諭	佐伯悠	教諭	尾形あや
教頭	齋藤恵美	教諭	桑原成海	教諭	小林庸子
教諭	原泰章	教諭	吉野幸恵	養護教諭	中條恭子
教諭	林さとみ	教諭	杉島和佳奈	事務主事	萩原温大
教諭	大関一久	教諭	阿左見成美	生活相談員	井上美里
教諭	本田千結	教諭	林路代	支援員	吉野久子
教諭	関真美	教諭	河田志穂	支援員	丸田裕子
教諭	小野露葉	教諭	星野勇	用務員	金井雅之

# 池田小学校

所在地 〒378-0073 沼田市発知新田町533番地  
電話番号 0278-23-9320 FAX 0278-23-9369  
校長名 渡辺 元子

## I 学校の経営

### 1 学校教育目標

- 【基本目標】 自ら考え 正しく判断し 行動できる 子どもの育成  
【具体目標】 (知) 自分から進んで学習できる子ども  
(徳) 思いやりのある子ども  
(体) 体を鍛える子ども

### 2 経営方針

めざす姿		
【めざす学校像】 ○児童が楽しいと思う学校 ○保護者が信頼する学校 ○教職員にとって魅力ある学校	【めざす児童像】 <b>い</b> いつも笑顔 <b>け</b> 元気なあいさつ <b>だ</b> 誰にもやさしい 池田の子	【めざす教師像】 ○子どものよさを認め伸ばし、 授業改善に努め、チームの 一員として尽力する教師

### 3 本年度の重点施策

- (1) 基礎・基本を定着させ、身に付けた知識・技能を生かして思考力・判断力・表現力の育成を図る。  
○授業の目標（めあて・ねらい）からまとめ・振り返りまでを板書により明確に示す。  
○一人一台学習者用端末機器を効果的に活用するための学習活動を工夫する。  
○体験的な学習活動を取り入れ、自ら考え・判断し表現する授業の工夫や単元構想に取り組む。
- (2) 豊かな心の育成に努める。  
○道徳科の授業を要とし、命の尊さやいじめを許さない心の育成に努める。  
○「自己存在感」「共感的な人間関係」「自己決定」の機能を生かした指導を意図的に行う。  
○朝読書、読み聞かせ、読書カードの活用、家庭との連携を通して読書に対する習慣化を図る。
- (3) 健康・体力の向上を図る。  
○心と体の健康づくりに向けて個に応じた指導を徹底する。  
○児童目線での健康・安全指導に努め、地域・保護者と連携して自尊感情や危険予測・回避能力を高める。
- (4) 家庭・地域と連携し学校教育の充実を図る。  
○きめ細かな情報発信に努め、家庭・地域と積極的な連携を進める。  
○基本的な生活習慣の育成や規範意識の高揚について、家庭と具体的な連携を図る。
- (5) 小中の連携を進め、教育効果を高める。  
○小中連携行事として、引渡訓練の共同実施や授業交流など、交流事業を充実させる。
- (6) 教師の指導力の向上、学校組織の活性化を図る。  
○教職員の専門性を生かした分掌運営を行い、一人一人がリーダーシップを発揮し指導体制の活性化を図る。  
○育成指針に合わせた的確な目標設定と人事評価制度を生かして、職能成長や組織の活性化を図る。

## II 校内研修推進

### 1 研修主題及び設定の理由

#### ～研修主題～

主 題 自ら学ぼうとする意欲をもち、互いに考えを深める児童の育成

副主題 ～算数科等の交流場面におけるICTを活用した授業実践を通して～

#### 児童の実態等との関わり

- ・教師の観察から、全体の前でしっかりと意見を言えたり、考えを深められたりする児童が少ない。
- ・普段意見が言えない児童も、ICTを活用することで、自分の考えを表現することができるようになってきた。
- ・国語、算数の学力を上げていく必要がある。

#### 指導の在り方との関わり

- ・交流場面でICTを活用してきたが、考えを深めるところが十分でない。
- ・児童の考えを深められる、ICTを活用した意見交流の仕方、有効方法を授業実践で見つけていく必要がある。
- ・様々な教科で取り組んできたが共通理解を深めるため教科を絞る必要がある。

### 2 研修内容・方法

#### (1)具現化したい目指す児童像

算数科を中心に、学習問題を調べ、考え、解決する中で、自分で考え、図や式、文やグラフなどを使って自分の言葉で相手に説明し、ICT等を活用した交流を通して自分の考えを深め学習する楽しさを実感できる児童の育成を目指す。

【低学年】自分の思いや考えをもち、友だちに伝え、友だちの説明により、考えが分かる子。

【中学年】自分の思いや考えを表現し、友だちの考えのよさ、ちがひ、同じところに気づき、考えを広げられる子。

【高学年】自分の思いや考えを表現し、複数の考えを比較したり、関連付けたりして考えを広げ、深められる子。

#### (2)共通実践する手立て

##### ○各教科で児童の主体性を育てるICTを活用した授業づくり

- ・めあてを追究する場面でICTを効果的に使った授業づくりを行い、解決方法や結果をICTを使い自ら発表させたり、他者説明させたりして、考えを深められるような実践を積み上げる。

### 3 研修計画・経過報告<裏面>

### 4 これまでの研修の成果と今後の課題

#### ○成果

- ・ICTの操作は児童にとって自分の考えを表現することへの抵抗感を減らすのに有効だった。また、交流が簡単にできるので考えが広げられると思う。また、交流場面でICTを活用を使うことによる時間短縮で授業時間に少しゆとりが生まれた。
- ・それぞれの学年に応じてICTの活用を知る事ができた。特に自分が担当していない学年ブロックの授業が参考になった。さらにB訪問に向けて指導案検討、プレ授業等で職員が協力しあえた。

#### ○課題

- ・クロムブックをどんな場面でどのように使うか、引き出しが増えていくとよい。
- ・低～高学年の発達段階でどこまでICTの活用ができればよいかを明確にしていく。

○課題解決に向けての今後の取組

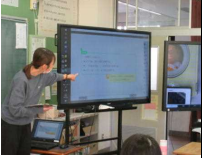


- ・教師がめあてを明確にし、ICTを活用しながら児童がめあてに迫る姿をできる限り具体的にイメージして授業を構想する必要がある。その上で、交流の仕方を引き続き研修していく。

### 3 研修経過報告




**指** は、指導案検討 **授** は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点(上段)・明らかなったこと(下段)]
04.10	・研修計画の検討 (推進委員会)	○昨年度の研修内容の共通理解 ○今年度の研修主題、副主題、研修内容、組織についての検討
04.24	・今年度の研修の方向性の確認 (全体会①)	○研修テーマ、研修の方向性についての確認 (ICTの活用場面 ・方法について)
05.08	・A訪問に向けて (全体会②)	○指導案の形式、教科、日程等の確認 ○B訪問、代表授業の授業者の確認
05.24	指導主事訪問A	○担当による説明 ○指導主事による授業参観
05.29	5年社会 「低地のくらし」 <b>授</b> 星野教諭 (全体会③) 	○高学年におけるICTの効果的活用 ・ロイロノートが質問箱に提出するだけでなく、交流して考えを深める必要がある。 ・目指す児童像やICTの活用について、明確にし、教職員間で共通理解を図る必要がある。
06.19	・A訪問を終えて (全体会④)	○A訪問での指導内容の共通理解 ・研修主題に迫るため、問題解決的学習を充実させ、児童が「考えを深めたい」と思う授業づくり、そのためのツールとしてICTを活用することが大切である。
06.27	・研修計画の検討 (推進委員会)	○目指す児童像、手立て(他者説明等)について検討する。
07.03	・研修計画の検討 (職員会議)	○目指す児童像、手立て(他者説明等)について共通理解
08.28	1年算数 「計算のお話を 作ろう」 <b>授</b> 井田教諭 (全体会⑤) 	○低学年におけるICTの効果的活用 ・児童が上手にロイロノートを活用し、友だちの考えたお話の問題を解き、考えを共有することができた。 ・タブレットを使ったより効果的な交流 (少人数の児童でのICTの活用の問題)
	・NRT 結果考察	○結果考察による児童の実態把握と指導改善方法について
09.25	6年算数 「比例の関係を 知ろう」 <b>授</b> 竹内教諭 (全体会⑥) 	○高学年におけるICTの効果的活用 ・スプレッドシート (児童がエクセルで比例のグラフを作成) の活用は興味深かった。 ・スプレッドシートの活用は棒グラフの方がよく、比例のグラフは書かせた方がよかった (ICTの効果的な活用)。
10.02	4年算数 「計算のやくそくを調べよう」 <b>指</b> 小田橋教諭 (全体会⑦)	○B訪問に向けて指導案の検討1 (中学年のICTの効果的活用) ・本時のねらいと手立て、板書計画、ヒントカードの活用の方等を検討した。また、他者説明の後はよい式を紹介する。 ・大型モニターを2台使い、授業に生かす。



10.10		プレ授業1 指小田橋教諭 (全体会⑧)	○10/2の検討会后、修正した指導案をもとにプレ授業1 ・授業の時間配分(タイムマネジメント)が適切だった。 ・考える時間を確保するためにノート、プリントからワークシートにする。また、教師の言葉の精選する必要がある。
10.16		指小田橋教諭 (全体会⑨)	○B訪問に向けて指導案の検討2 ・指導案の学習のねらいの文言を検討した。また、本時のまとめ、振り返りは児童の言葉を生かすようにする。 ・適用問題は解き方や式を考えるのみで解かない。
10.23		プレ授業2 指小田橋教諭 (全体会⑩)	○B訪問の指導案(最終版)でのプレ授業2 ・図から分かることを児童の言葉で説明させ、それを教師が式にする。 ・モニターに表示される図が誰のものかを分かるようにする。
10.27		授 指導主事訪問B	○目指す児童像とICTの活用場面について ・タブレットを使ったことで他の児童の図を知ることができ、スムーズな交流ができ、ICT活用のよさが出ていた。 ・考えが共有でできたため、他の意見のよさに気付けた。 ・答えを確かめる時などは児童に答えさせた方がよかった。
01.21		・成果と課題(全体会⑪)	○今年度の成果と課題、指導のあり方と児童の変容のまとめ
02.05		・次年度の研修内容、CRT検査結果分析(全体会⑫)	○来年度の研修主題・内容・方法についての検討 ○CRT検査の結果分析による反省と課題設定
03.18		・次年度の研修(全体会⑬)	○主題、副主題、来年度の方向性について

※資質向上研修

月日	区分	講師	内容
05.08	食物アレルギー対策	養護教諭	○食物アレルギー対応やエピペンの使い方について
06.05	日本語指導	本多真美先生 (沼田北小学校)	○日本語指導スーパーバイザー(JSV)について ・JSVの役割や職務について理解した。
06.19	特別支援教育 	伊藤容子先生 (沼田特別支援学校)	○特別支援を要する児童の理解について ・発達障害について理解し、知的障害であるADHD(注意欠格障害・多動性障害)、LD(学習障害)、ASD(自閉症スペクトラム)への対応について考えた。
11.20	読書指導 	熊丸朱美先生 (群馬県立図書館) 	○ビブリオバトルについて ・群馬県の読書状況について研修した。 ・班になり、好きな本を紹介し合う「ビブリオバトル」を行った。本への興味・関心が高まるとともに紹介しあうことにより、よりよい人間関係づくりにもつながることが分かった。

< 職 員 一 覧 >

職名	氏名	職名	氏名
校長	渡辺元子	教諭	齋藤理恵
教頭	青木益巳	教諭	小野修一
教諭	星野竹志	養護教諭	角田美由紀
教諭	森下好美	事務主事	三俣沙月
教諭	竹内正	非常勤講師	小林知美
教諭	井田さやか	生活相談員	金子尚美
教諭	田村美希	用務員	松井敦夫
教諭	小田橋美玖		

# 薄 根 小 学 校

所在地 〒378-0064 沼田市善桂寺町32番地  
 電話番号 0278-22-2891 FAX 22-0785  
 校長名 菅原 慶成

## I 学校の経営

### 1 学校の教育目標

「進んで学び、心豊かに、たくましく生きる児童の育成」

- 進んで学ぶ子（自主、創造、根気）
- 思いやりのある子（正義感、奉仕、博愛）
- 体をきたえる子（健康、安全、体力）

### 2 経営方針

	【目指す学校像】	【目指す児童像】	【目指す教師像】
柱	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童が明日も行きたいと思う学校 ※友だちとの信頼関係がある</li> <li>○保護者が信頼する学校 ※我が子が生き生きしている</li> <li>○教職員に魅力ある学校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○うれしい言葉「ありがとう」</li> <li>○すてきな笑顔で毎日あいさつ</li> <li>○粘り強く努力する</li> </ul> <p style="text-align: center;">薄根っ子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童のよさを見逃さない教師</li> <li>○温かい笑顔の教師</li> <li>○チーム力を意識する教師</li> <li>○授業改善に努力する教師</li> </ul>
基礎	共に喜びを分かち合える児童と職員	夢や目標をもった生活	自立した社会人としての行動
土台	一人一人の児童を大切にする愛情を持った指導（教師としての使命感）		

### 3 本年度の重点施策

#### (1) 「進んで学ぶ子」の育成（学校評価：評価対象Ⅱ「確かな学力」）

- 積極的な授業改善（めあてに対する見通しを持たせ、振り返りのある授業づくりと単元計画を作成）
- 家庭と連携した家庭学習習慣の確立と体験活動を活用した学習意欲の高揚
- 個別の指導計画の作成・活用と職員との連携を図った特別支援教育の充実

#### (2) 「思いやりのある子」の育成（学校評価：評価対象Ⅲ「豊かな心」）

- 全教育活動における道徳教育の推進と特別活動の充実
- 児童の心に寄り添った積極的な生徒指導
- いじめ基本防止方針を踏まえた適切・迅速な対応と児童主体の「いじめ防止活動」の展開

#### (3) 「からだをきたえる子」の育成（学校評価：評価対象Ⅳ「健康・体力」）

- 「体力向上プラン」をもとにした、組織的・計画的な体力づくりの推進
- 学校保健委員会の活動を核とした健康教育の推進（学校保健委員会による「未来の自分に元気をとどけよう」をテーマにした、自らの健康を自らで守る健康教育の推進）
- 安全教育の充実による危機回避能力の育成（学校評価：評価対象Ⅴ「安全確保・施設設備」）

#### (4) 地域と連携した信頼される学校づくり（学校評価：評価対象Ⅰ「保護者との連携」）

- 地域を愛し、大切にする心の育成
- 地域の自然、歴史、文化・伝統等を活用したり、理解したりする教育の推進
- 地域との協力体制づくり

## II 校内研修の推進

### 1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主 題 自分の考えをもち、表現できる児童の育成

副主題 ～各教科における協働的な学びを充実させるための交流の場の工夫を通して～

子どもの実態との関わり

- ・表現しようという意識が弱かったり、表現の仕方が分からなかったりする児童がいる。
- ・相手意識をもち伝えることができないため、自分の思いや考えがうまく伝わらない。
- ・発表に苦手意識があるため、自信がなく発言することができない。
- ・互いの考えを伝え合うだけで終わってしまい、交流から新たな気づきを得たり、考えを深めたりするところまでいかない。

指導の在り方との関わり

- ・自分の考えをもつ（考える）時に、「だれに（相手）、何を、どのように伝えるか（目的）」を意識してまとめられるように、ICTやノート・ワークシート等の工夫をする。
- ・自信をもてるようにするために、ねらいに応じて、伝えるための場の形態を工夫（ペア・グループ）しながら、交流の活性化を図る。
- ・よりよく意図が伝わるように、子ども同士をつないだり、子どもと課題をつないだりする言葉がけを意図的・計画的に行う。
- ・交流が意見発表にならないように、深める・広げる視点を明確に示す。

### 2 研修内容・方法

#### (1) 具体化した目指す子ども像

【低学年】 交流活動を通して、多様な考え方に触れ、自分の思いを表現できる児童

【中学年】 交流を通して、他者の考えに気付いたり考えを広げたりしながら、自分の思いを表現できる児童

【高学年】 対話や交流を通して、他者の思いや考えに触れながら、自分の考えを再構築できる児童

#### (2) 共通実践する手立て

- ・相手意識や目的意識をしっかりともって交流できるようにするために、交流の視点を明確にし、単元のねらいや児童の実態に応じた交流の形態を工夫したりする。
- ・交流を通して一人一人の考えを広げたり深めたり、またさらに新たな考え方につなげたりしていくために、単位時間及び単元全体の構成を工夫する。また、「どの場面で」「どの形態で」「何のために」交流するのかを指導案に明記する。
- ・ICT機器を活用して課題を提示したり考えを表現させたりするなど、ねらいを達成するためのICTの効果的な活用方法を考え、授業に取り入れる。

### 3 研修計画・経過報告 <裏面>

### 4 これまでの研修の成果と今後の取組

#### ○成果

- ・交流形態の工夫や交流後の気づきや学びを自覚させたり、自分の考えを再構築させたりしたことは、有効だった。

- 課題
  - ・話し合いが各自の考えの伝え合いにとどまってしまうことがあったので、話し合いの充実を図るための手立てを考えたり、話し合いのゴールの設定の仕方を検討したりする必要がある。
- 課題解決に向けた今後の取組
  - ・児童自身にとって必要感があり、考えを広げたり深めたりすることができるような活動になっているかを検討し、単位時間及び単元全体の構成を工夫しながら授業実践を行っていく。

### 3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
4. 10	・今年度の研修の方向性の検討 (推進委員会)	○今年度の研修の方向や組織について ・今年度の方向性や組織について確認した。
4. 24	・今年度の主題・副主題や研修内容についての検討 (全体会)	○今年度の基幹となる研修の方向や組織について ・学年ブロックに分かれ、共通の手立てをもとに実践していくことを共通理解した。
	・実践内容や研究授業について (ブロック)	○児童の実態や課題、共通の手立て、研究授業の計画について ・児童の実態や課題、共通の手立てになりそうなことを確認した。
5. 2	・めざす児童像、共通の手立ての検討 (推進委員会)	○めざす児童像、共通実践する手立てについて ・低・中・高学年のめざす児童像のつながりや、共通実践する手立てが検討された。
5. 8	・めざす児童像や手立ての共通理解、指導主事訪問 A に向けて (全体会)	○めざす児童像、共通実践する手立てについて ・めざす児童像や共通実践する手立てを確認し、授業実践の方向性を明らかにできた。
5. 22	・ICT研修	○ICTの効果的な活用について ・スプレッドシートやジャムボードの使い方を確認した。
6. 5	・授業実践の計画、指導案形式の確認	○授業実践、指導案形式について ・授業実践、指導案形式について共通理解した。
6. 19	・授業実践について、指導主事訪問 A に向けて	○各ブロックの授業実践について ・授業実践する教科や時期などを確認した。
7. 3	・指導主事訪問 A	○各教科での実践、指導主事による指導助言
9. 4	・全国学力・学習状況調査の分析	○本校児童の傾向、問題分析 ○全国学力・学習状況調査活用研修会 (オンライン)
9. 11	授 1 年国語 下田教諭 「ききたいな、ともだちのはなし」 (学年代表)	○全員が話す機会がある小グループでインタビュー活動をしたことは、自分の言葉で質問したり感想を述べたりする上で有効であったか。 ・話す機会が全員に保障されており、話す視点 (発表・質問・振り返り) も明確になっていたので、児童が一生懸命取り組み、自分の言葉で話すことができていた。
	指 高宮教諭 (ブロック代表)	・単元計画、めあて、学習形態について検討された。
9. 25	授 3 年算数 内田教諭 「かけ算の筆算」 (学年代表)	○交流を通して、他者の考えに気付いたり考えたりしながらグループ活動ができていたか。 ・個別に追究するときに答えが間違っていた児童がグループ活動になって答えが違うことに気づき、直すことができた。
9. 28	授 5 年道徳 腰原教諭 「かぜのでんわ」 (学年代表)	○本時の終末においてグループでの交流場面を設け、「一生懸命生きる」ことについて再考察したことは、前向きに生きようとするものの大切さを考えるのに有効であったか。 ・グループごとの考えを提出させ、大型モニターに映して比較したり共通点を探したりしたことで、大切なことが明確になった。
10. 18	指 中澤教諭 (低学年ブロック)	○ブロック毎に代表者の授業について検討。
	指 高宮教諭 (中学年ブロック)	・授業の方向性、本時の展開、視点や手立てについて検討された。
	指 浅見教諭 (高学年ブロック)	
10. 23	指 浅見教諭 (ブロック代表)	・指導方針、本時の展開について検討された。

10.26	授3年社会 高宮教諭 「店で働く人」 〈ブロック代表〉	○販売の仕方の工夫と消費者の願いを関連付けさせたことは、スーパーマーケットで働く人の仕事の工夫について考えるのに有効であったか。 ・学習したことを生かし、まとめの文をねらいに沿って考え、自分の言葉で表現することができていた。
11.6	指中澤教諭〈ブロック代表〉	・単元計画、本時の展開について検討された。
11.27	授6年道徳 浅見教諭 「命のアサガオ」 〈ブロック代表〉	○本時のめあてを振り返り、グループや全体で比較・検討したことは、命の大切さについて一人ひとりが考えるために有効であったか。 ・グループ内で考えを比較し、それによって「命を大切にする」ことについてグループで考えをまとめることができており、有効であった。
12.11	・研修の成果と課題	○今年度の研修の成果と課題について ・成果と今後の課題について共通理解を図ることができた。
12.12	授2年生活 中澤教諭 「ぐんぐん育つ みんなの野菜」 〈ブロック代表〉	○多様な体験活動をもとに生み出した自分たちのアイデアを伝え合う活動を行ったことは、他者と関わることのよさを感じ、積極的に交流できるようにするのに有効であったか。 ・必要感のある活動になっており、外部の人材を効果的に活用することができた。振り返りでは、児童の言葉がよく出ていた。
1.22	・研修のまとめ	○今年度の研修のあしあとを振り返る。 ・今年度の研修を振り返るとともに、来年度の研修について話し合った。
1.30	・来年度の研修の方向性の検討 (推進委員会)	○来年度の研修の方向性や組織について ・来年度の研修の方向性や組織について確認された。
2.19	・次年度の研修について	○来年度の研修の方向性について ・来年度の研修の方向性について共通理解を図ることができた。

※資質向上研修

月日	研修計画 [内容]		実施内容
	区分	講師	
5.22	I C T研修	教育DX	スプレッドシートやジャムボード等の使い方について
6.19	特別支援教育研修①	特別支援コーディネーター	心理検査、知能指数について
9.11	特別支援教育研修②	特別支援コーディネーター	吃音について
10.23	特別支援教育研修③	特別支援コーディネーター	心理検査の結果から分かることについて
11.6	特別支援教育研修④	特別支援コーディネーター	発達障害について

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	菅原慶成	教諭	小野千恵美	教諭	加古孝
教頭	井口智恵子	教諭	下田麻衣	教諭	福岡智子
教諭	林圭子	教諭	小熊瑞江	養護教諭	竹内孝子
教諭	星野修一	教諭	森山有紗	総括補佐事務長	戸丸慶子
教諭	小倉洋子	教諭	中澤朋美	支援員	上野優子
教諭	浅見敏子	教諭	腰原茉実	支援員	阿部美緒子
教諭	青木三重子	教諭	真下慧大	支援員	矢島貴子
教諭	高宮昭子	教諭	阿部政志	生活相談員	五十嵐千代美
教諭	宮沢菜穂子	教諭	角田明大	用務員	星野海斗
教諭	七五三木幸世	教諭	内田貴大		

# 川 田 小 学 校

所在地 〒378-0024 沼田市下川田町540番地  
電話番号 0278-22-3056 FAX 0278-22-0786  
校長名 内藤 麗子

## I 学校の経営

### 1 学校の教育目標

- (1) 基本目標・・・健康で豊かな人間性と生きる力をそなえた児童を育成する。
- (2) 具体目標・・・①かしこい子（学ぶ意欲をもち、しっかり勉強する子）  
②やさしい子（思いやりがあり、友達と協力できる子）  
③たくましい子（明るく、最後まで頑張る子）

### 2 経営方針

#### (1) 学校経営目標

◎学校評価の効果的活用を通して教育課題を組織的・継続的に改善し、子供たちの成長のために教職員が一丸となってよりよい教育活動を行う。

#### (2) 目指す学校像

- ①児童に身に付けさせたい力を明確にし、授業改善を推進する学校
- ②児童一人一人のよさを認め、温かな人間関係と学校生活に必要な規律を形成する学校
- ③児童の心身の健康を守り、安心・安全な学校生活を保障する学校
- ④よりよい教育に資するために、時間を意識した働き方を実行する学校
- ⑤家庭・地域とともに、温かく児童を育てる学校

### 3 本年度の重点施策

#### (1) 学校経営の充実

- ・報告、連絡、相談を徹底し、教職員の縦と横の連携を密にしながら学校組織の対応力強化と、職能成長を図る。
- ・時間を意識した働き方及び服務規律の確保について学校全体で共通の認識をもち、教育活動の質的向上と教職員の健康の保持増進を図る。
- ・コミュニティスクールの仕組みを生かし、育てたい児童像を保護者や地域と共有しながら特色ある学校づくりを推進する。

#### (2) 確かな学力の育成 【サマースクール沼田】

- ・学習規律を定着させて学びに向かう力を高め、粘り強く学習に取り組む態度と、自己の学習を調整する力を培う。
- ・本時で働かせたい「見方・考え方」を明確にして授業を構想するとともに、問題解決的な学習過程を確実に実施することで、単元（題材）を通して育成する資質・能力を効果的に育む。
- ・指導のねらいを踏まえてICTを活用する場面を吟味し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。
- ・振り返り学習や家庭学習に計画的に取り組ませ、基礎的・基本的な事項を定着させる。

#### (3) 豊かな心の育成 【児童生徒の命を守り、育てる教育】【家族で本を読みましょ！】【沼田大好き！ふるさと学習】

- ・教職員が、各々の立場で児童理解を深めるとともに、「自己存在感、共感的な人間関係、自己決定、安全安心な風土」を視点に一貫性のある指導を行い、一人一人の自己指導能力を培う。
- ・挨拶、言葉遣い、きまりの遵守など、他者と協働して集団生活を営む上で必要な規律や考え方、望ましい行動様式について、それぞれの理由を児童と共有しながら定着を図る。
- ・朝読書や読み聞かせ、親子読書を通して様々な本に親しませ、豊かな感性を育成する。
- ・明確なねらいのもとに、地域の人・もの・ことを活用した教育活動を充実させ、地域に対する関心と愛着を育む。

#### (4) 健やかな体の育成 【セイフティ沼田】【沼田市SNSルール】

- ・生活リズムチェックカードや川田小SNSルールを活用し、家庭と連携しながら感染症予防に資する免疫力の向上と、メディアに依存しない生活習慣の確立を図る。
- ・教科体育や川小カップにおいて、運動に親しませながら、基本的な動きや技能の向上を図る。
- ・避難訓練の実効性を高め、児童の危機回避能力と、教職員の危機管理体制を向上させる。

#### (5) 特別支援教育の充実

- ・個別の指導計画に基づき、個々の教育的ニーズに応じた支援について学校全体で共通実践する。
- ・保護者との情報共有や関係機関との連携に努め、一貫した方針で切れ目のない支援を行う。

## II 校内研修の推進

### 1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 主体的・協働的に学ぶ児童の育成

副主題 ～生活科・総合的な学習の時間における、地域の人・もの・ことを生かした学習を通して～

#### 児童の実態との関わり

- ・課題を自分事としてとらえる力が十分でなく、追究が深まらないことがある。
- ・協調性をもって他者と一緒に活動する児童が多く見られる一方で、主体的に取り組む児童は限られている。
- ・自分の考えをもつことはできるが、交流場面において、他者の考えからさらに自分の考えを深める力が不十分である。

#### 指導の在り方との関わり

- ・学習対象に興味・関心をもてるような課題設定を工夫する必要がある。
- ・児童が必然性を感じる場面で、協働的な活動を取り入れるとともに、一人一人が考え、活動できるような形態や内容を工夫する必要がある。
- ・多様な考えを引き出し、それぞれを比較検討しながら、個の考えと全体の考えを広げたり深めたりする必要がある。

### 2 研修の内容・方法

#### (1) 具体化した目指す児童像

【低学年】身近な人・もの・ことに自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする子

【中学年】地域の人・もの・ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組み、よりよく課題を解決する子

【高学年】地域の人・もの・ことについて探究的な学習に主体的・協働的に取り組み、自己の生き方と関わらせながらよりよく課題を解決する子

#### (2) 具体化した目指す児童像を達成するための共通実践する手立て

- ・対象に直接働きかけたり、気付いたことを表現したりする具体的な活動や体験を繰り返し、対象との関わりを深め、気付きの質を高める。
- ・児童が見いだした疑問や関心に基づいて課題を立て、解決に向けて情報を集め、整理分析して、まとめ・表現する活動を発展的に繰り返す。
- ・体験活動や交流活動については、ねらい(どのような資質・能力の向上を図り、何を学ばせるのか)を明確に定めて実施する。

### 3 研修計画・経過報告(次ページ)

### 4 これまでの研修の成果と今後の取組

#### ○成果

- ・単元全体を構想し、児童が主体的に学習できるようにしたことで、目的を明確にして体験活動や交流活動を行うことができた。また、児童が自ら課題意識がもてるような導入の工夫、課題のめたせ方をすることで、単元全体において学習の見通しを明確化することができた。
- ・体験活動や交流活動をする際、川田地区コミュニティセンターと連携することができた。

#### ○課題

- ・めあてのめたせ方や、見通しのめたせ方が、教師主導になってしまうことがあり、児童が主体的に取り組むことができないことがあった。
- ・児童が考えを整理・分析したり、班ごとに交流したりする場面において、教師が意図的に支援をすることができなかつたり、班ごとの進捗状況にばらつきが出てしまつたりした。
- ・全体で学び合いをする場面において、教師と児童との一対一のやり取りが多くなつてしまい、児童同士の協働的な学びにつなげることができないことがあった。

#### ○課題解決に向けての今後の取組

- ・児童が何のためにどのような活動をするのか、児童自身が学習を調整できるよう、目的意識をもたせた単元の導入を行う。
- ・教師が児童一人一人の学習状況に応じた支援を行うことで、整理・分析の場面や交流場面において児童同士が協働的に学び、自分の考えを確かなものに練り上げられるようにする。
- ・教師が班の学習状況に応じた問い返しや揺さぶりをを行い、班による協働的な学習を充実させる。

3 研修計画・経過報告

指は指導案検討 授は研究授業・授業検討会

月日	研修計画 [内容]	研修報告 [○研修の視点・明らかになったこと]
4. 24	今年度の研修について	○研修主題、内容・方法、児童像、共通実践する手立ての検討 ○生活科及び総合的な学習の時間の指導に関する情報交換
5. 18	指導主事訪問 A	○研究授業 ○研修内容・方法、共通実践する手立てに関する指導助言
5. 22	研修推進計画の確認	○指導主事訪問 Aにおける指導助言の確認 ○研修教科に関する児童アンケートの結果分析 ○一人一授業公開の単元及び内容の検討
6. 12	授業づくりの基本の確認	○生活科及び総合的な学習の時間の学習過程 ○指導計画の見直し
6. 26	講師招聘研修(総合教育センターより)	○生活科及び総合的な学習の時間の授業づくりについての講話
7. 13	授2年総合 「町たんけん1～みんなで使う 場所へ行こう～」(小野教諭)	○主体的・協働的に学ぶ児童の育成、地域の人・もの・ことを生かした学習 ・伝え合う活動において、協働的に学ぶための交流のたせ方の工夫が必要である。
8. 28	全国学テの分析結果の共有 指指導主事訪問 B 指導案検討(1)	○全国学テの本校の結果と課題の共有 ○B 訪問における本時の展開を班ごとに検討
9. 25	指指導主事訪問 B 指導案検討(2)	○B 訪問における本時の展開のグループ活動の進め方の検討、 思考ツールの活用目的と活用方法の確認
9. 13	授6年理科 「てこのはたらき」(川上教諭)	○主体的・協働的に学ぶ児童の育成、交流活動の目的を明確に定める。 ・個人の考えを班で交流させてから全体で交流した方が、協働的な学びに円滑につながる。
9. 25	授6年総合 「災害に備えて行動しよう」 (飯野教諭)	○主体的・協働的に学ぶ児童の育成、地域の人・もの・ことを生かした学習 ・交流活動の後の学び合いの過程で教師と児童との一対一のやり取りに終始するのではなく、児童同士の学び合いを活性化 する指導の工夫が必要である。
10. 5	授5年総合 「子持山の素晴らしさを発信 しよう」(渡根木教諭)	○主体的・協働的に学ぶ児童の育成、地域の人・もの・ことを生かした学習 ・児童が主体的に学習に取り組めるように、目的意識をもたせた学習活動の工夫、見通しのもたせ方が必要である。
10. 11	授4年学活 「正しい歯の磨き方を知ろう」 (T1桑原教諭、T2林教諭)	○主体的・協働的に学ぶ児童の育成、交流活動の目的を明確に定める。 ・児童の課題を把握し、思考の流れに沿って学習することが主体的に学ぶことにつながる。
10. 25	授2年算数 「かけ算」(高橋葵教諭)	○主体的・協働的に学ぶ児童の育成、交流活動の目的を明確に定める。 ・問題解決的な学習過程を確実に実施し、児童が目的意識をもって学習をすることが課題解決の充実につながる。
11. 13	授3年総合 指導主事訪問 B 「見つけよう 伝えよう ふるさと沼田のじまん」 (星野教諭)	○主体的・協働的に学ぶ児童の育成、地域の人・もの・ことを生かした学習 ・単元全体の計画や課題のたせ方が課題解決的に進めることができる と、児童が主体的に学習を進めることができる。 ・班での交流活動の後、全体で学び合いをする際に、教師が意図的に児童同士に話し合いを促したり、考えさせたりすることで協働的な学びにつなげることができる。
11. 15	授川田っこ2組 自立活動「暴力について考えよう」 (高橋富士夫教諭)	○主体的・協働的に学ぶ児童の育成、交流活動の目的を明確に定める。 ・児童が主体的に学べるように、目的意識をもたせた交流活動の工夫が必要である。
11. 24	授4年総合 「社会にある障害について知ろう」 (林教諭)	○主体的・協働的に学ぶ児童の育成、地域の人・もの・ことを生かした学習 ・児童が課題意識をもって探究課題を設定することができると主体的・協働的な学習につながる。 ・単元計画を綿密に作成し、指導のねらい、授業のめあて、評価項目を整合させる必要がある。
11. 27	授1年生活科 「じぶんでできるよ」 (見城教諭)	○主体的・協働的に学ぶ児童の育成、地域の人・もの・ことを生かした学習 ・話し合いをさせる際に、話し合いの目的と視点を明確にすると、児童同士の協働的な学びが充実する。



12.8	授5年家庭科 「ミシンにトライ！手作りで 楽しい生活」 (阿部教諭)	○主体的・協働的に学ぶ児童の育成、交流活動の目的を明確に定める。 ・児童の思考の流れに沿って学習過程を進めることで、児童が主体的に学習することができた。
1.22	授川田っこ1組 国語「たいわをしよう」 (秋元教諭)	○主体的・協働的に学ぶ児童の育成、交流活動の目的を明確に定める。
1.22	研修のまとめと次年度の研修 について	○研修内容・方法の検証（児童アンケートの結果分析等） ○次年度の研修の方向性の確認
2.26	CRT 標準学力検査の結果分析	○結果分析、重点的に補充する箇所の確認

※資質向上研修、ミニ研修（木曜日の放課後を中心に20分程度、教職員が互いに学び合う場として実施）

区 分	講 師	内 容
教科指導	校内研修部	各教科指導のポイント（算数科を中心に）
教科指導	校内研修部	交流場面での意見交換について
ICTの活用	校内研修部	デジタル教科書、ロイロノート、Googlemect、思考ツール、オンライン授業、生成AI等
学力検査の分析	学力向上 CO.	全国学力学習状況調査、NRT、CRT等の結果と改善策
学習指導	学力向上 CO.	漢字・計算コンテストに向けての事前指導と事後指導
表簿研修	教務主任	指導要録の法的位置付け、年度始め処理事項の確認
表簿研修	教務主任	通知表の評価、指導要録の評価
生徒指導	生徒指導主任	ヤングケアラー・問題行動への対応、チームでの支援
プール管理	体育部	プール管理の方法、機械操作等
安全指導	養護教諭	危機管理マニュアルの確認
安全指導	安全主任	危機管理マニュアルの見直し
人権教育	人権主任	人権教育の基本とポイント
特別支援教育	特別支援 CO.	特別な支援を要する児童への対応、各種検査について
キャリア教育	キャリア主任	学級活動の内容についての説明
教科指導	生活科主任	「生活科」学習研究協議会群馬大会分科会の視聴
教科指導	総合主任	「総合的な学習の時間」研究協議会群馬大会分科会の動画視聴

〈職員一覧〉

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	内藤 麗子	教 諭	渡根木 星花
教 頭	川端 郁男	〃	高橋 葵
教 諭	見城 美津子	〃	川上 正人
〃	秋元 葉子	養護教諭	桑原 由佳
〃	高橋 富士夫	事務主事	山田 徳子
〃	阿部 貞治	学校教育支援員	小野 輝美
〃	飯野 みさほ	〃	星野 律子（1学期）
〃	林 美鈴	小学校生活相談員	清水 幸子
〃	小野 彩乃	用務員	渡邊 道明
〃	星野 利彰	運転手	本多 昌一

# 白 沢 小 学 校

所在地 〒378-0121 沼田市白沢町高平94番地1

電話番号 0278-53-2151 FAX 53-3860

校長名 下田 一貴

## I 学校の経営

- 1 学校の教育目標
- よく勉強する子
  - 思いやりのある子
  - ねばり強い子

## 2 経営方針

- (1) 【確かな学力の育成】「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実と「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
- (2) 【豊かな人間性の育成】自己肯定感と自己有用感を醸成する、生徒指導・人権教育・道徳教育の充実
- (3) 【健やかな体の育成】望ましい生活習慣を身に付け、体力向上に向け進んで運動に親しむ活動の充実
- (4) 【教育課程の編成・実施・評価・改善】児童・保護者・地域の現状や要望に応える社会に開かれた教育課程の創造
- (5) 【業務改善・組織運営】学校運営の効率化とワークライフバランスの推進
- (6) 【学校安全・危機管理】安全で安心した教育活動の提供のための学習環境や危機管理体制の整備・充実
- (7) 【家庭や地域社会との連携・協働】地域とともにある学校づくりと、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進
- (8) 【特別支援教育の充実】一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実

## 3 本年度の重点施策

- (1) 学力向上 【「沼田大好き！」ふるさと学習】【教職員の資質向上】
  - ・ 分かりやすい授業と徹底した繰り返し指導による基礎・基本の定着
  - ・ ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びによる思考力・判断力・表現力の育成
  - ・ 単元・題材のデザインの工夫による、「主体的・対話的で深い学び」の実現
  - ・ めあて・見通し・振り返りの充実による、学びに向かう力の育成
  - ・ 教室環境と学びのユニバーサルデザイン化による学習環境の整備充実
- (2) 豊かな人間性 【沼田市 SNS ルール】【家族で本を読みましょう】【「沼田大好き！」ふるさと学習】
  - ・ 積極的な生徒児童と、基本的な生活習慣の「当たり前」指導の推進
  - ・ 人権が尊重される環境づくりといじめを許さない学校・学級の雰囲気づくり
  - ・ カリキュラム・教材・指導の工夫による、道徳的実践力の育成 【道徳教育の充実】
  - ・ 学年・学級経営の充実による、望ましい人間関係力の育成
  - ・ 地域の自然や人々との関わりを生かした豊かな感性を育む活動の推進
- (3) 健康・安全 【命を守り育てる教育】【セイフティ沼田】【幼小中連携】
  - ・ 運動の楽しさや喜びを味わわせる体育授業や体力向上活動の工夫
  - ・ 自己の健康への関心を高め、課題をもって取り組む健康教育の推進
  - ・ 自他の生命を尊重し、自ら安全な生活を営むことのできる安全教育と安全管理の徹底
  - ・ 交通安全・不審者対応等、地域や関係機関と連携した取組の推進

## II 校内研修の推進

### 1 研修主題及び設定の理由

#### ～研修主題～

主 題 自ら考え、共に学び合い、いかす児童の育成

副主題 ～ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指す

学習の工夫を通して～

#### 児童の実態との関わり

- ・国語科を中心に個別最適な学びと協働的な学びの一体化への活用ができるようになってきた。
- ・低学年ではタブレットの操作を習得、写真の提出を活用した。中・高学年で自分の考えを様々な方法で提出、共有、学び合いに活用できるようになってきた。
- ・活用問題を苦手とする傾向がある。
- ・協働的な学びを通して、意見を比較し、議論することで自分の考えを深めたり新しい考えを構築したりしていこうとする力はまだ十分ではない。

#### 指導の在り方との関わり

- ・算数科を中心に既習事項を活用し、各教科における見方・考え方を働かせ、表現し、交流できる課題の設定ができる問題解決的な単元デザインを工夫する。
- ・思考や表現の場面でICTを有効に活用し、学習効果を高める。
- ・研究の第3次とし、協働的な学びを通してICTの活用により多くの意見に触れ、さらに議論することで自分の考えを深めたり新しい考えを構築したりする。
- ・「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善を進め、児童の確かな学力を育成し、全学年で学力の底上げを図る。

### 2 研修内容・方法

#### (1) 具体化した目指す児童像

- 【低学年】自分の考えをもち、友達の考えと比べることで同じところや違いに気付くことができる児童
- 【中学年】自分の考えをもち、友達の考えと比べて自分の考えとの違いに気付くことができ、自分の言葉で簡潔に表現する児童
- 【高学年】自分の考え（の根拠）をもち、交流を通して自分の考えを広げたり深めたりすることができる児童

#### (2) 具体化した目指す児童像を達成するための共通実践する手立て

- ・「単元計画のデザイン構想」を作成・活用し、各教科における見方や考え方を働かせて、学びの連続性のある問題解決的な単元のデザインを工夫していく。
- ・単元・単位時間ごとの「目指す児童像が達成された姿」を明確にもって、単元計画のデザインを構想する。
- ・単元計画の中に「話し合い活動」「体験的な活動」「振り返り活動」などの「具体的な内容」を位置付け、児童の変容をイメージし、ICTを活用した授業を実践する。
- ・思考や表現の場面でICTを有効に活用し学習効果を高める。
- ・昨年度の研修で行ったロイロノートを活用する方法を広げ、他教科でも活用できる汎用的なものとする。



### 3 研修計画・経過報告 <裏面>

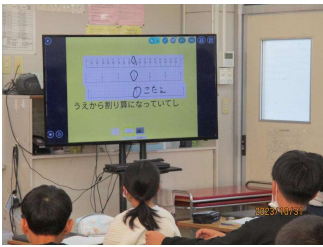

### 4 これまでの研修の成果と今後の取組

- 成果 ・ICTを活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体化ができてきた。
- 課題 ・ICTを活用するための学習規律や個人差を埋めるための手立てを工夫する。
- 今後の取組 ・今年度は本テーマ（研修主題・副主題）の第3次とし、算数科を中心に個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の具現化を目指してきたが、他教科にも広げていきたい。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
4.10	今年度の研修について	○研修内容の共通理解 ○テーマ・サブテーマの決定 ○A訪問、学年部会代表研究授業について
5. 8	校内研修全体計画について	○研究授業(代表授業・B 訪問)についての共通理解 ○C&S調査の実施・学力検査(NRT)の分析について
5.11	指導主事要請訪問 A	○研究授業(B 訪問)について、研究の方向性を確認、共通理解
6.19	研究授業実施、C&S調査考察について	○研究授業(代表授業・B 訪問)についての確認 ○C&S調査の考察について
7.10	学力検査(NRT)の分析と活用について	○学力検査(NRT)の分析と活用についての共通理解
夏休業中	*自主研修	○授業実践に向けた指導案作成とその検討 ○B訪問に向けて、単元・指導案検討
9.11	指 B 訪問指導案検討	○授業説明
9.28~	指 B 訪問指導案検討	○ B 訪問指導案変更部分の検討 (低・中・高学年部会で)
10. 3	授 中学年研究授業 	3年：算数「大きい数のわり算、分数とわり算」星野美千枝教諭 成：タブレットの有効的な活用として、どの方法で説明したのかをテキストで色分けをして提出させたことで、比較・検討がしやすい。 課：自力解決の時間を決めて、時間が途中で提出させ、途中の考えを全体で交流させることで、比較・検討の時間を十分確保したい。
10.10	授 低学年研究授業 	2年：算数「ひっ算のしかたを考えよう」石原偉子教諭 成：タブレットを活用して、個別に操作活動を行うことで、自分の考えをもち、全体で考え方を共有できた。 課：タブレット操作をしやすくするための工夫と活用に慣れさせることで、交流の場面における比較・検討を十分にさせたい。
10.16	全国学力・学習状況調査の結果と分析について 指 B 訪問指導案検討	○全国学力・学習状況調査の結果と分析について確認。 全職員で共通理解、今後の活用を検討。 ○ B 訪問指導案最終確認
10.16~	B 訪問準備	○共通理解、役割分担、模擬授業、準備
10.31	授 指導主事要請訪問 B 	5年：算数「分数のたし算とひき算」鈴木詩生教諭 成：ICT とノートの活用、使い分けがしっかりとでき効果的だった。資料箱に学びの蓄積としての前時までの板書や数直線、数カードなどの資料が入っていて、自由に活用できるので自力解決のヒントとなり、下位の児童の底上げにつながった。また、図(水色)・式(黄色)・言葉(ピンク)でテキストの色分けをしたことで友達の意見の比較・検討をしやすくすることに役立った。

		<b>課</b> :提出箱へ提出の際に時間制限を設けても、活動を中止して提出するという気持ちの切り替えが難しいようなので、操作ができないようにロックを掛けるかタブレットの画面を閉じるかする必要はある。また、発問は丁寧に具体的に言い、言葉選びが大切となる。
11.6	B 訪問の成果と課題 今後の研修について	○これまでの取組の成果と課題の明確化 ○今年度の今後の研修について
11.17	<b>授</b> 初任者研修授業研究会 	4年：算数「分数をくわしく調べよう」富永隼哉教諭 <b>成</b> :児童の考えを写真に撮り、画面に提示して説明させることで、考えを全体で共有することができ、考えが深められた。その結果、授業がスムーズに進んだ。授業の終末には、多くの児童が単位分数をおさえて計算の説明ができていた。 <b>課</b> :ICT を活用して、他の人の考えを説明する（他者説明）時間を充実させていきたい。
12.4	紀要作成について	
2.26	今年度のまとめ	○来年度の研修主題や研修内容の検討、C&S調査について、CRTの分析
3.11	次年度に向けて	○来年度の研修主題や研修内容の仮決定

※資質向上研修

月日	区分	担当	内容
4.24~	初任者研修 メンター研修	メンター教員	○生徒指導、学習指導等の疑問等への対応法、心構えやポイントの研修
6.19	生徒指導研修	生徒指導主任	○C&S調査を活用した生徒指導研修 1回目
8.22	特支研修講演会	講師 三俣利明校長(白沢中)	○児童との関わり方、教室の環境づくりなど
8.22	ICT研修	情報担当 三浦武夫教諭	○授業に役立つロイロノートの使い方
9.22~	道徳・教科研修	教科担当	○道徳・教科の授業研究
12.4	生徒指導研修他	生徒指導主任	○C&S調査を活用した生徒指導研修 2回目
2.26	生徒指導研修	生徒指導主任	○C&S調査を活用した生徒指導研修 3回目
夏休み	年間指導計画	各担任	○総合の年間指導計画の見直し

< 職員一覧 >

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	下田 一貴	教諭	富永 隼哉	教諭	加藤 大禅
教頭	井熊 美保	教諭	鈴木 詩生	養護教諭	加藤 俊子
教諭	三浦 武夫	教諭	松井 みづ穂	主幹事務長	原 澤 修
教諭	青木 奈津江	教諭	吉野 泰広	支援員	鈴木 ゆかり
教諭	石原 偉子	教諭	見城 麻桜香	生活相談員	河野 君代
教諭	星野 美千枝	教諭	高橋 暁美	用務員	村瀬 京一

# 利根小学校

所在地 〒378-0303 沼田市利根町追貝93番地  
電話番号 0278-25-8172 FAX 0278-56-2221  
校長名 吉田 広幸

## 1 学校の経営

### 1 学校の教育目標

基本目標：確かな学力と、豊かな心を持ち、ねばり強さと郷土を愛する精神に富む、心身ともに健全な児童を育成する。

具体目標：**知** 進んで学習する子 **徳** 思いやりのある子 **体** ねばり強くがんばる子

### 2 経営方針

スローガン：気づき 考え 実行し 一人一人の輝く笑顔 元気あふれる利根小学校

- (1) 基礎的・基本的な知識や技能の習得、活用力・問題解決力の育成
- (2) 人を思いやる心、自己有用感、道徳的判断力・心情・実践意欲と態度の育成
- (3) 健康・食育・安全の知識や技能の習得と実践力の育成
- (4) 家庭や地域社会と連携・協働し、安心・安全、保護者や地域から信頼される学校づくり

### 3 本年度の重点施策

#### (1) 基礎的・基本的な知識や技能の習得、活用力（思考・判断・表現）・問題解決力の育成

- ① 根拠を明確にした話し合いでの考えの深まりや広がりを実感させることで、「ふしぎ・できた・分かった」等の喜びをもたせる授業づくり
- ② 一人一台端末等のICTを効果的に活用した、授業づくり（前時との接続、単元・題材の接続（教科の見方・考え方）「めあて」「見通し」、個の考えを表現、考えの交流、学習のまとめ、振り返り等）
- ③ 学習ルールの徹底と発達段階や教科の特性を踏まえた学習の仕方を身に付けさせることによる、自主的・主体的に学習に取り組む態度の育成
- ④ 育成する力やねらいを明確にし、「めあて」「見通し」「振り返り」「ともに考え、深める場」を意識した授業づくり
- ⑤ 隙間時間や学びの時間、漢字・計算トライアル工夫による、基礎学力の定着
- ⑥ 家庭学習の手引きの活用や「家読の日」の設定等の家庭との連携による、家庭学習の習慣や読書習慣の確立【**家族で本を読みましょ**う】
- ⑦ 一人一人の教育的ニーズの的確な把握による、状況に応じたきめ細かな支援の充実

#### (2) 「人を思いやる心、自己有用感、道徳的判断力・心情・実践意欲と態度の育成

- ① 人権尊重を核とした、お年寄りや異学年、特別支援学級との交流等による、思いやりにあふれるよりよい人間関係が築ける学級・学年・学校づくり【**沼田大好き！ふるさと学習**】
- ② 一人一人が活躍できる学校行事や学級活動の充実と個のよさを認め励まし、自己有用感を高める学校づくり
- ③ 朝読書や読み聞かせ、家読の充実と市立図書館との連携等による、読書活動の推進【**家族で本を読みましょ**う】
- ④ 「考え、議論する」道徳科への授業改善を図った、道徳的判断力・心情・実践意欲の向上
- ⑤ 児童の多面的な把握と理解を基盤にした、日常及び授業中の指導・支援の充実
- ⑥ 日常の観察や生活アンケート等を活用した組織的ないじめの未然防止や早期発見、早期対応

#### (3) 健康・食育の知識や技能の習得と実践力の育成

- ① 家庭と連携した「早寝、早起き、朝ごはん」の推進と「利根小よい子の一日」、「利根小 SNS ルール」等を活用した、規則正しく、規律正しい生活習慣の育成【**沼田市 SNS ルール**】
- ② 特別支援教育と生徒指導、教育相談の関連性の重視と職員の共通理解の深化、SCや外部関係機関との連携の推進
- ③ 命の大切さを実感する活動を効果的に取り入れたSOSの出し方教育等による、自ら命を守る態度の育成【**児童生徒の命を守り、育てる教育**】
- ④ 健康に関する諸計画等についての共通理解と学校保健委員会の活用等による健康づくりに関する指導の充実
- ⑤ 子どもたち一人一人の健康に関する情報（既往症、食物アレルギー等）の共有と適切な指導・支援
- ⑥ 養護教諭や栄養教諭と連携した、各教科における食に関する指導や給食指導の充実
- ⑦ 体力向上プランを活用した体力の増進と運動能力の育成

#### (4) 保護者や地域から信頼される学校づくり

- ① 学校安全計画や危機管理マニュアルを基にした安全学習や避難訓練の実施による、危険予測・察知・回避能力の育成と対応力・実践力の向上【**セイフティ沼田**】
- ② 家庭と地域と協働し、地域の教育素材や地域の教育力を最大限に生かし、郷土のよさや夢を語る学校づくりを目指した、特色ある教育活動の推進
- ③ 保・小・中の連携による、小1プロブレムや中1ギャップの解消と各教科等の指導における連結【**幼小中連携**】【**沼田大好き！ふるさと学習**】
- ④ 職員研修、人事評価システム等を活用した、教職員一人一人の指導力・資質の向上と組織的・協働的な取組の充実
- ⑤ 児童と向き合う時間増を目指した、校務のスリム化と計画的・組織的な運営に向けての改善
- ⑥ 新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながらの学校教育目標の実現

## II 校内研修の推進

### 1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主 題 自分の考えを伝え、学びを深めることのできる児童の育成  
副主題 ～算数科における対話的活動の充実を通して～

#### 児童の実態との関わり

- ・ 自力解決での考えをグループや全体の場で説明できる児童に偏りが見られる。
- ・ 考えを交流する際、友達と自分の考えを比較し、共通点や相違点を見つけたり質問したり説明を補足したりするなど、児童同士が主体的に交流できるようになることが望まれる。

#### 指導の在り方との関わり

- ・ 1 単位時間の基本的な流れを共通理解して取り組んだことで、授業の積み上げができた。
- ・ 対話的活動での教師の支援の仕方や、児童の考えを深めるための比較・検討のさせ方などをさらに研修する必要がある。
- ・ 問い返しによる焦点化で、児童が学びを自覚できるようにする必要がある。

### 2 研修内容・方法

#### (1) 具体化した目指す児童像

- 【低学年】 具体物や図を用いて、自分なりの考えを分かりやすく伝え、他の考えのよさに気付くことのできる児童。
- 【中学年】 図や資料を用いて、根拠を明確にして相手に伝え、他の考えのよさを取り入れて考えを広げることのできる児童。
- 【高学年】 図や資料を用いて、筋道立てて相手に伝え、他の考えのよさを取り入れて考えを広げ深めることのできる児童。

#### (2) 具体化した目指す児童像を達成するための共通実践する手立て

- ・ 言葉、数式、図、ICT 等を用いて考えをもたせたり伝えたりするための指導法の共通理解を図る。
- ・ 自力解決後に互いの考えを理解したりアドバイスしたりする対話的活動を設定し、自己の考え方の根拠を明確にさせる。集団解決において、児童の考えを取り上げながら比較・検討し、よりよい解決方法や表現など思考を深める授業展開を工夫し、学びを自覚させる。
- ・ 全職員がねらいに沿って研修を進められるように、一人1授業における授業計画・授業検討・まとめでの共通理解を図り、ICT 機器や一人1台端末を活用して、研修の積み上げを図る。

### 3 研修計画・経過報告 〈次ページ〉

### 4 これまでの研修の成果と今後の取組

#### ○成果

- ・ グループやペアでの対話がスムーズにできるようになり、話形の活用で児童の説明力も向上している。教師も発問の吟味や問い返しを行うことで、児童の学びを深める授業改善に結びつけている。

#### ○課題

- ・ 対話活動の目的を明確にし、自分の考えを伝える活動を充実させる。間違いや分からないところは補い合い、個の考えを明確にさせる。全体共有で、教師は児童の発言を生かしながら考えを深めさせる。

#### ○課題解決に向けての今後の取組

- ・ 必要性のある対話活動を設定し、教師による問い返しなど適切な支援を行うことで、児童の学びの自覚につなげるようにする。学習活動を精選し、振り返りで適用問題に取り組むことで児童が達成感をもてる授業展開や支援を考える。

## 3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画〔内容〕	経過報告〔○ 研修の視点 ・明らかになったこと〕
4. 11 4. 17 4. 25 5. 15	・研修計画の検討	○テーマ・サブテーマの決定、「目指す児童像」の検討 ○研修内容についての共通理解と一人1授業の計画 ○算数科における基礎研究（1単位時間の学習過程） ○A訪問に向けての指導案形式と共通理解
5. 22	・指導主事A訪問	○各教科での実践、指導主事による指導助言
6. 19	・研究推進に向けた情報交換	○A訪問の指導を受けての研修の見直し、内容の共通理解 ○NRT学力検査の分析と報告
7. 3	授① 亀山教諭 〈4年理科〉 「雨水のゆくえ」 (高学年部会)	○実験の結果を砂の粒の大きさと関連付け、理由を明確にして説明することができる。 ・ICTを活用した導入の動画や実験手順を示した映像、ロイロノートを用いた児童の考えの把握が有効であった。 ・班で意見をまとめる際の視点の与え方を具体的に示し、児童の考えやキーワードを意識させながら対話的にまとめる。
7. 10	・研修推進に向けて	○亀山教諭授業研究会報告 ○夏期休業中の研修とB訪問に向けての共通理解
7. 11	授② 渡辺教諭 〈5年算数〉 「合同の図形」 (全体)	○合同になる三角形の条件についてグループで話し合い、3つの方法があることが分かる。 ・児童がタブレットを用いて手際よく説明できていた。聞いていた児童も自分の考えと比較して聞けていた。 ・交流の際、違う方法を意識させると、より児童の考えが広がった。教師との対話では、個に戻して考えを深めさせていく。
8. 24	指① 指導案検討	○B訪問へ向けての共通理解（授業構想、研修主題との関連）
9. 4	授③ 大関教諭 〈特支2年算数〉 「計算のくふう」 (低学年部会)	○3口の加法で、計算の順序を換えても答えが同じであることを理解し、10のまとまりに着目して答えを求めることができる。 ・百玉そろばんや方眼パズルを操作させ説明させたことで、児童が10のまとまりにするよさに気づいて取り組めた。 ・交換法則の理解の場면을言葉だけでなく具体物を示して本人に説明させるとよかった。タブレットの活用も有効ではないか。
9. 20	指② 指導案検討	○大関教諭授業研究会報告 ○全国学力・学習状況調査分析結果の共有 ○B訪問へ向けての共通理解（前回からの修正点について）
9. 26	授④ 石原教諭 〈2年算数〉 「たし算とひき算のひっ算」 (低学年部会)	○数カードで式を作り筆算の仕方を説明することができる。 ・話形「まず」「次に」を使って児童が説明できていた。グループで落ち着いて説明し合っていた。 ・児童がタブレットを操作したり活用したりできるとよい。友達の間違いにも気づけるようにしていく。
10. 2	・研修推進に向けて	○大関教諭授業研究会報告
10. 5	授⑤ 丸山教諭 〈3年算数〉 「かけ算のひっ算(1)」 (低学年部会)	○23×3の計算の仕方を、アレイ図や模擬貨幣を使ったり数操作をしたりして考え、位ごとに計算すればよいことが分かる。 ・児童同士の対話活動後に方法ごとに考えを色別でカードで提出させたので、児童の考えを把握しやすかった。 ・答えの69を確認し、計算の仕方に焦点を当てて考えさせるとよい。適用問題も1問は全体で確認する。



10. 23	指③ 指導案検討	○丸山教諭授業研究会報告 ○B訪問模擬授業（児童の思考の流れに沿った本時の展開）
10. 25	授⑥ 石田教諭 〈6年算数〉 「円の面積」 （高学年部会）	○多様な方法で、円を含む複合図形の面積の求め方を考え、図や式を用いて説明する。 ・Google スライドの活用が考えさせるのに有効だった。教師が常に問い返しをし、大事なことを焦点化して考えさせていた。 ・対話の仕方が班ごとに異なり、個々の児童の考えや広がりが見られなかった。対話活動の目的を明確にする。
11. 1	授⑦ 小野教諭 〈4年算数〉 「計算のきまり」 （高学年部会）	○ドットの数の求め方を、図や式に表したり、図や式から考えを読み取ったりして説明することができる。 ・ロイロノートを活用して図や式に考えを表せていた。自分の考えだけでなく、教師が意図的に図や式を示して考えさせられた。 ・タブレット使用の場面やルールを確認し、紙ベースとの併用も考える。対話の際の比較の視点を児童に示す。
11. 7	授⑧ 千葉教諭 〈特支3年算数〉 「数と時間」 （低学年部会）	○教師と一緒に数を数えたり、時計の長針と短針に気をつけて時計を読んだりすることができる。 ・ロイロノートを活用した数並べや「5とび電車」「1とび歩き」などストーリー性をもたせて、操作活動ができた。 ・今後に向け、30から数を数えたり、逆から読んだり暗唱したりする活動も取り入れる。自力で解く場面を最後に入れる。
11. 13	・B訪問に向けて	○石田教諭、小野教諭、千葉教諭、授業研究会報告 ○研究経過報告書の確認・共通理解とB訪問役割分担
11. 21	指導主事訪問B 授⑨ 中里教諭 〈1年算数〉 「ひきざん」（全体）	○繰り下がりのある減法計算で、減々法があることを知り、計算の仕方を説明できる。 ・児童の思考やペースに合わせ、児童の考えを取り上げられた。ブロックや図を使いながら、友達への説明や発表ができていた。 ・既習の「減加法」の説明を手短に済ませることで、本時の中心となる「減々法」に時間が充てられた。両方を比較して定着させていく。
12. 12	・研修の成果とまとめ	○B訪問の指導を受けての研修の成果と課題、改善点について
1. 22		○R5年度研修の成果と課題、改善点について（アンケートより）
2. 12	・次年度に向けた検討	○次年度に向けての方向性の検討
3. 4	・学力検査結果考察	○CRT学力検査の分析と報告

<職員一覧>

職名	氏名	職名	氏名
校長	吉田 広幸	教諭	小野 詩織
教頭	佐々木真由美	〃	亀山 秀治
教諭	丸山 みのり	養護教諭	鈴木 梓
〃	石原 博子	栄養教諭	遠藤 まみ
〃	大関 久美子	主幹事務長	星野 一枝
〃	石田 真規	非常勤講師兼初任研後補充	星野 裕平
〃	中里 美穂	学校教育支援員	平山 よし子
〃	千葉 聖愛	用務員	柳 恵美子
〃	渡辺 訓史		

# 多 那 小 学 校

所在地 〒378-0317 沼田市利根町多那732番地  
電話番号 0278-53-2919 FAX 53-3199  
校長名 宮田 好子

## I 学校の経営

- 1 学校教育目標 【基本目標】◎多那を愛し、未来をきりひらく子  
【具体目標】○よく学ぶ子(知) ○思いやりのある子(徳) ○たくましい子(体)

## 2 経営方針

- (1) 経営目標 小・中全教職員の経営参画(チームたな)による組織の活性化を図る。  
(2) 目指す学校像 とともに学び、考え、助け合い、高め合う多那校(チームたな)  
(3) 目指す教師像 小・中学校の枠を超え、感謝、使命感と奉仕の心を持ち、互いに支え、高め認め合える人間性豊かな教師

## 3 本年度の重点施策

- (1) 確かな学力の育成 【 】は沼田市独自施策との関係
- ①小中9年間の学びの連続性を意識した学習指導の実施
  - ②教員の専門性や特性をいかした教科担当制による学力向上、小中相互乗り入れ型教科指導の充実
  - ③基礎・基本の定着(学習の見通し・めあての提示と振り返り、放課後学習、家庭学習)
  - ④ICTを効果的に活用した協働的な学び、個別最適な学びの一体的な充実
  - ⑤校内研修の充実(小中完全融合型の組織活動)による教師の指導力の向上
  - ⑥特別支援教育の充実(一人一人の実態やニーズ・困り感に寄り添った指導・支援、職員研修)
- (2) 豊かな心の育成
- ①考え議論する道徳での命の大切さの繰り返し指導【**児童生徒の命を守り、育てる教育**】
  - ②全ての教育活動における自己肯定感・自己有用感を育てる意図的な場の設定と指導(よさや努力を褒め認める)
  - ③凡事徹底による生徒指導(当たり前前のが当たり前前出来る=挨拶・返事・言葉遣い・服装)
  - ④人権教育・特別支援教育の充実による、児童の心のバリアフリーの育成
  - ⑤信頼関係を基盤にした生徒指導の推進と沼田市SNSルールの改善・充実【**みんなで守り、みんなを守る「沼田市SNSルール」**】
  - ⑥不登校の未然防止の徹底とスクールカウンセラーの活用等による教育相談活動の充実
  - ⑦家庭等と連携した読書活動の推進(親子読書の充実)【**家族で本を読みましよう**】
- (3) 健康の保持増進と安全の確保
- ①児童生徒の健康と安全を第一に考えた、全教育課程における感染症予防対策の徹底
  - ②小中連携による9年間の連続性を踏まえた体力向上プランの確実な実施
  - ③教科体育の運動量確保や運動好きの児童の育成
  - ④体力強化に特化した年間指導計画に基づいた業間運動の実施
  - ⑤食育を通じた健康の保持増進の重要性の意識付け
  - ⑥各種緊急時避難訓練等の安全指導の推進【**セイフティ沼田**】
- (4) 家庭・地域との連携・協働
- ①子どもは宝、地域で育てる地域の学校、地域と協働した教育活動の充実【**沼田(多那)大好き!ふるさと学習**】
  - ②コミュニティスクールの機能の充実と教育課程の改善
  - ③家庭・地域との連携で多那の子の健全育成
- (5) 組織マネジメントの充実と職能の向上
- ①報告・連絡・相談+記録の徹底、全職員参画のPDCAによる学校課題の解決
  - ②C4thの活用による会議等の時間短縮
  - ②組織的なOJT推進による職能の成長
  - ③教育公務員としての自覚をもち服務規律確保に関わる組織や取組の見直し

## II 校内研修の推進

### 1 研修主題及び設定の理由

～ 研修主題 ～  
「自ら学び、考えを広げ深め合える児童生徒の育成」  
—対話活動を重視した単元構想の工夫を通して—

#### 児童生徒の実態との関わり

- ・自分と異なる他者の考えやよさを理解しようとする姿が見られ、ねらいにそった思考の広がりや深まりが見られるようになった。
- ・協働的な学びの場面で、考えの根拠を説明したり、質問に答えたりすることに課題が見られる児童生徒が多い。また、身に付けた知識や技能を活用し課題を解決することを苦手としている児童生徒が多い。



#### 指導の在り方との関わり

- ・自己の考えを広げ深める対話的な学びを充実させていくために、子供同士の協働、教職員や地域の方との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等の対話活動を効果的に単元構想に設定する必要がある。
- ・児童生徒が見通しをもって自ら学び、身に付けた知識や技能を活用し、課題解決に向かえるよう、単元を見通した課題設定の在り方、対話活動を充実させる手立ての工夫などが必要である。



### 2 研修内容・方法

#### (1) 具体化した目指す児童生徒像

- 【低学年】自分の考えを言葉や図などで説明したり、問いかけたり、答えたりできる。
- 【高学年】根拠を示して考えを説明したり、視点をもって考えを比較したり、よりよい考えに気付いたりすることができる。
- 【中学生】学習の見通しをもち、自ら進んで学習に取り組み、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりすることができる。

#### (2) 具体化した目指す児童生徒像を達成するための共通実践する手立て

- ・伝える活動や多様な他者（子供同士、教職員や地域の方、先哲の考え、他校等）との対話を重視した単元構想の工夫を図る。
- ・知識・技能を身に付ける場面、それを活用し課題解決を図る場面を単元構想の中に効果的に設定する。



### 3 研修計画・経過報告 次ページ



### 4 研修の成果と今後の課題

#### ○成果

- ・対話活動を通して、単元を貫く課題を設定したり、学習計画を立てたり、単元構想を共有したりすることで、児童生徒が学習の見通しをもち、めあてを意識して主体的に学習する姿が見られ、自ら学び、考えを広げ深め合える児童生徒の育成が図られた。
- ・他教科と関連させたり、単元に必要感のある課題や適切な難易度の課題を設定したり、対話活動のきっかけとなる学習活動や資料、体験を工夫することで、積極的な対話を促すことができ、思考を深めたり、活用力を向上させたりすることができた。
- ・単元構想を練ることで、教師が学習のつながりや対話活動の目的を意識して計画的に授業を行うことができるようになり、児童生徒の質の高い学びにつながった。

#### ○課題

- ・対話活動で児童生徒の思考を深めるためには、ICTの活用方法や対話の必要性を感じられる課題の設定、思考の根拠になる資料や学習活動、発問などを更に工夫していく必要がある。
- ・小規模校のため少人数の対話や教師と児童生徒との対話が中心となってしまう、多様な他者と対話する機会をもたず、多様な考えを比較検討したり、多様な視点から物事を考えたりする力の育成に課題が残った。

#### ○課題解決に向けての今後の取組

- ・さらに児童生徒の思考を広げ深めるために、地域の方との交流や異学年交流、他校との交流などの多様な他者と交流する機会を設定したり、ICTの活用や提示資料や発問や課題の設定など、授業における教師の手立てを工夫したりして、質の高い対話活動を行えるように授業改善を推進していく。

1 研修計画及び経過報告 (全:全体会 班:班別協議 校:校種別部会 指:指導案検討)

月 日	研修の内容	経過報告 (○研修の視点・明らかになったこと)
4.11	全① ・研修内容について ・指導上の工夫について	○本年度の研修主題、副主題について
5.1	全② ・校内研究授業について 校① ・目指す児童生徒像の検討 班① ・研修グループ計画作り	○B訪問授業者決定 ○目指す児童生徒像の検討 ○1人一授業の計画立案
6.5	全③ ・授業研究会について 班② ・研究授業指導案検討	○研究会後の報告、成果と課題の記録について ○1人一授業指導案検討
6.20	授 業 実 践 小5家庭科 大河原教諭	○題材導入時に対話を通して、児童が題材の課題を設定し、学習計画を立てる工夫 ・児童が学習計画を立てることで、学習の見通しがもて、体験活動と対話で思考の深まりが見られた。
6.21	中3英語 高山教諭	○授業内で対話活動を充実させる手立ての工夫 ・形態を変え対話することで、身につけた知識や技能を活用して課題を解決する姿が見られた。
6.26	指導主事訪問A	
6.29	授 業 実 践 中2社会 宮内教諭	○単元を貫く課題を生徒と一緒に設定する工夫 ・単元を貫く課題を生徒と対話しながら設定することで、毎時間の見通しをもつことができた。
7.10	小6国語 渡貫教諭	○総合的な学習と関連させ、教科横断的に単元構想を考える工夫 ・他教科とも関連付けながら単元構想を練ることで、目的意識や必要感もてる構成になった。
7.10	全④ ・A訪問の振り返り ・B訪問の授業について 班③ ・研究授業指導案検討	○A訪問の成果と課題の共通理解 ○B訪問の授業について ○1人一授業指導案検討
7.19	授 業 実 践 小1, 2 学活 金井教諭、柳澤教諭	○児童の実態を観察することで、必要感のある課題を設定した学活の授業構想の工夫 ・生活に関わる内容を取り上げ、児童にとって説得力のある授業となった。
8.28	全⑤ ・授業実践の報告① 校② ・B訪問指導案検討指①	○1人一授業の成果と課題の共通理解 ○B訪問指導案の検討
9.15	授 業 実 践 中3数学 千明教諭	○単元に既習内容を体系的に整理し、活用する学習活動を設定した工夫 ・身に付けた知識や技能の使い分けを考え対話しまとめることで、活用力を向上させることができた。
10.2	小4国語 星野教諭	○単元構想図を用いることで児童に見通しをもたせる工夫 ・本時の学習の位置づけを認識させ、授業者と児童が単元構想を共有して学習を進めることができた。
10.2	全⑥ ・B訪問授業研究会について 校③ ・B訪問指導案検討指②	○B訪問授業研究会について ○B訪問指導案の検討
10.23	全⑦ ・授業実践の報告② 校④ ・B訪問模擬授業	○1人一授業の成果と課題の共通理解 ○B訪問に向けて、重点の確認

11.1	多那小中学校指導主事訪問B			
	小3国語	井上教諭	○言語活動に向けて、つながりを意識した単元構想とワークシートの工夫 ・単元を通したワークシートを活用し、それをもとに対話することで、文章の読み取りを書くことに生かすことができた。	
	中2理科	下田教諭	○生徒同士の対話活動を活発にし、主体的に課題解決へ向かうための手立ての工夫 ・考える視点を絞ったことによって生徒が各々の考えをもつことができ、対話活動が活発に行われた。	
11.6	全⑧ 班④	・B訪問の成果と課題 ・研究授業指導案検討	○B訪問を受けての成果と課題、今後の方向性の共通理解 ○1人1授業指導案検討	
11.29	授業実践	中1国語	佐藤教諭	○単元構想を生徒とともに作成し、目的・目標を意識づけする工夫 ・一時間ごとの授業目標を明確にすることで、主体的に対話活動や学習目標に向かう姿勢ができた。
		小3理科	小林教諭	○単元の課題をつくる場面で児童の気付き等を話し合う活動を取り入れる工夫 ・単元の課題作りに児童の気付きを取り入れたことで、児童の主体的な学習態度を育むことができた。
12.7		中3美術	大岩教諭	○単元構想の再構築を工夫する。 ・自ら構築した知識や感性を以降の学習にいかすことで対話活動の質を高め新しい気付きを促せた。
12.18	全⑨	・授業実践の報告③ ・紀要原稿の作成について	○1人1授業の成果と課題の共通理解	
適宜		紀要原稿の作成		
1.22	全⑩ 班⑤	・実践の振り返りとまとめ ・授業研究会④の報告 ・次年度構想の検討	○本年度の研究の成果と課題 ・実践を振り返り、成果と課題を明確にする。 ○次年度の研究内容について ・成果と課題を基に、次年度の構想を検討する。	
2.26	全⑪	・次年度の校内研修の方向性	○研修主題、副主題(案)作成	

月日	区分	講師	内容
5.17	保健に関する研修	消防署員	・心肺蘇生法講習、アレルギー対応の仕方
毎月	服務規律に関する研修	服務規律担当	・服務規律について
9.4	特別支援教育に関する研修	特別支援教育専門相談員 大谷先生	・小中別ケース会議、それを受けての助言や講話
12.18	Googleフォームの使い方の研修	中情報主任 下田教諭	・アンケートの作成方法、活用方法、テストの作成法等

職名	氏名	職名	氏名
校長	宮田 好子	教諭	井上 駿
教頭	星野 純一	教諭	金井みち代
教諭	星野 智子	養護教諭	柳澤 知里
教諭	渡貫 文子	〃	(松原 恵)
教諭	小林 昌行	非常勤講師	松井 和則
教諭	大河原真奈美	主任用務員	金子 陽子